

2019

*Nishinomiya Municipal
Central Hospital*

高度な医療を優しく、確実に

西宮市立中央病院

〒663-8014 西宮市林田町8番24号
TEL (0798) 64-1515 FAX (0798) 67-4811
FAX (0798) 67-4896
TEL (0798) 64-1540 (地域医療連携室)
<https://www.hospital-nishinomiya.jp/>



西宮市立中央病院の基本理念

市民に期待され、親しまれ、信頼される病院であるよう、

- 一、 患者さま中心の心温かな病院をめざします。
- 二、 医学の進歩に対応し、質の高い総合的な診療をめざします。
- 三、 地域医療機関との連携、保健・福祉との協力のもとに、市民の健康を守ります。
- 四、 開かれた病院として、市民・医療関係者の生涯教育の充実に努めます。

目次

| | |
|-------------------------------|----|
| ご挨拶 ～病院事業管理者～ | 1 |
| ご挨拶 ～院長～ | 2 |
| 病院の概要 | 3 |
| フロアのご案内 | 4 |
| 施設認定・主な医療機器 | 5 |
| 外来診療科・一般外来 | 6 |
| 専門外来 | 7 |
| 救急体制 | 8 |
| セカンドオピニオン外来 | 9 |
| 各診療科のご案内 | |
| ■内科(消化器、呼吸器、循環器、神経、糖尿病・内分泌内科) | 10 |
| ■外科 | 14 |
| ■整形外科 | 16 |
| ■小児科 | 17 |
| ■皮膚科 | 18 |
| ■泌尿器科 | 19 |
| ■眼科 | 20 |
| ■麻酔科、ペインクリニック内科・外科、疼痛・緩和センター | 21 |
| ■歯科口腔外科 | 22 |
| ■臨床病理科 | 22 |
| ■脳神経外科 | 23 |
| ■耳鼻咽喉科 | 23 |
| ■放射線科 | 24 |
| ■産婦人科 | 24 |
| ■消化器センター | 25 |
| ■呼吸器センター | 26 |
| ■心臓血管センター | 27 |
| ■内視鏡センター | 29 |
| ■糖尿病センター | 30 |
| ■超音波センター | 31 |
| ■リハビリテーション科(リハビリテーションセンター) | 32 |
| ■周術期サポートセンター | 33 |
| その他部門のご紹介 | |
| ■薬剤部 | 35 |
| ■臨床検査科 | 36 |
| ■外来化学療法室 | 37 |
| ■看護部 | 38 |
| ■緩和ケアチーム | 39 |
| ■褥瘡対策委員会 | 40 |
| ■栄養管理室 | 41 |
| ■NST(栄養サポートチーム) | 43 |
| ■感染対策室 | 44 |
| ■医療安全対策室 | 45 |
| ■臨床工学科 | 46 |
| 人間ドックのご案内 | 47 |
| 西宮市立中央病院「連携医制度」のご案内 | 49 |
| 地域医療連携室でのご紹介・ご予約患者さん承りについて | 50 |
| 患者さんのご紹介から受診までのご案内 | 51 |
| 検査予約システムの導入について | 52 |
| 放射線科検査受付 | 53 |
| 内視鏡検査受付 | 54 |
| 診療情報提供書 | 55 |
| 診療情報提供書(栄養指導用) | 56 |
| 放射線科検査申込書(診療情報提供書) | 57 |
| 内視鏡検査申込書(診療情報提供書) | 58 |
| 診療情報提供書(冠動脈CT検査依頼) | 59 |
| 冠動脈CT受診依頼票 | 60 |



西宮市病院事業管理者

南都 伸介

市は、小さな行政の単位であります。そのため最も住民に密接な行政単位であります。従いまして、西宮市の病院事業は、住民の皆様のおそばに常において生命、健康を日々お守りすることがその最大の使命であります。市立病院の機能として重要なものは、充実した急性期医療と頻度の高い疾患に対して安全・確実かつ高レベルの医療をお届けすることであろうと考えます。したがって、救急体制の充実、悪性疾患（肺がん、胃がん、大腸がん、肝がん、乳がん、すい臓がん、前立腺がんなど）に対する高度な医療の提供、さらに新型インフルエンザなどの流行性の疾患に対する迅速かつ適切な対応が重要であると考えております。

さて、西宮市立中央病院は県立西宮病院と統合し、約6年後(2025年)に新病院として開院を目指しています。今後の具体的なスケジュールは、今年度に策定する「統合再編基本計画」のなかで、診療機能や病床数等とともに提示されます。統合までの中央病院の診療体制ですが、新病院の開院まで現体制を原則維持しながら、診療を継続します。ここ数年で大型医療機器（MRI、リニアック、アンギオ、ダヴィンチ等々）を更新・整備しましたので、統合までの間、各種検査や手術患者の受入などにも従来通り対応いたします。また、新病院の開院により中央病院は閉院となりますが、両病院の診療科目や患者情報（電子カルテ情報）は、新病院に継承されますので、中央病院で対応している患者は新病院に引き継がれます。

今後とも西宮市立中央病院が、病院をご利用いただく方々はもとより、広く市民や地域の医療機関の皆様にご信頼される病院として、また、西宮市を中心とした阪神医療圏における医療の公の拠点としての責務を全うできるよう尽力してまいります。

ご挨拶 ~院長~



院長
根津 理一郎

西宮市における中核的総合病院としての当院の役割は、診療所および民間病院との有機的、補完的連携のもとに質の高い急性期医療を提供し、地域完結型医療に貢献することであると考えています。

そして本年1月、皆様もご存知のように、「地域医療構想」計画を基盤として、近年多様化する医療需要に対応すべく検討されてまいりました県立西宮病院と当院の統合がいよいよ現実のものとなることが決定致しました。

統合新病院の開院は約6年後、2025年を目指しておりますが、統合までの期間は現施設にて診療を継続予定であり、高度急性期医療を提供するために、最新医療機器の更新、新規購入、外来・病棟再編、耐震工事等を行ってまいりました。また統合移転してからも当院での診療情報、すなわち電子カルテ内容や画像資料は新病院に引き継がれることが決定しておりますので、これまでと同様、病診連携、病病連携により当院をご利用いただきます様をお願い致します。

さて当院は今年度、「地域医療支援病院」の名称承認をいただくことができました。具体的にはかかりつけ医との連携強化による高い紹介率、逆紹介率の維持、共同研修会の開催、救急患者の積極的な受け入れなどが要件とされており、長年の地域の皆様方との良好な連携の賜物であると存じ、改めて厚く御礼申し上げます。

地域の特性に応じた構想策定に向けて、地域医療機関の皆様との連携を一層強化し、協働して地域包括ケアを推進していくことが重要であると考えております。今後とも引き続きのご指導、ご支援を何卒宜しく願い申し上げます。

病院の概要

名称

西宮市立中央病院

NISHINOMIYA MUNICIPAL CENTRAL HOSPITAL

診療科目

内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、糖尿病・内分泌内科、
ペインクリニック内科、外科、呼吸器外科、消化器外科、乳腺外科、整形外科、
脳神経外科(院内紹介のみ)、ペインクリニック外科、小児科、皮膚科、泌尿器科、
産婦人科(外来のみ)、眼科、耳鼻咽喉科(休診)、リハビリテーション科、
放射線科、臨床検査科、歯科口腔外科、麻酔科

許可病床数

257床

外来診療日

月曜日～金曜日

一般外来 (初診・再診)

受付時間 午前8時30分～午前11時

※小児科午後一般外来…木曜日のみ

受付時間 午後1時～午後3時

専門外来

受付時間 午後1時～午後3時

※予約のみ

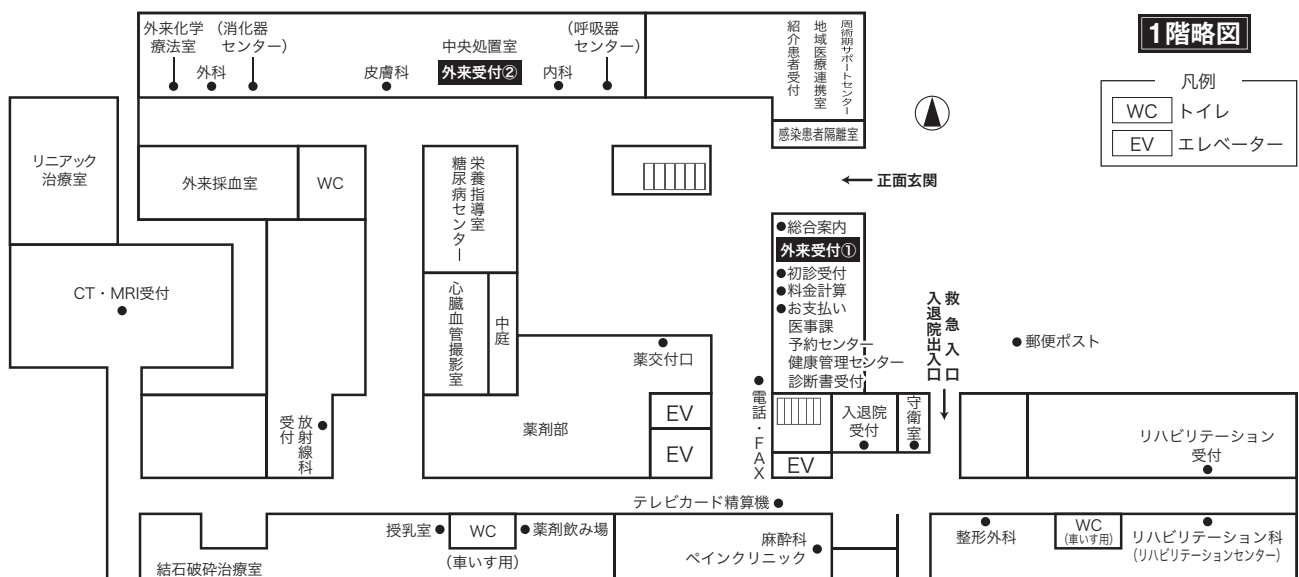
休診日

土曜日、日曜日、国民の祝日

年末年始(12月29日～1月3日)

フロアのご案内

| | | |
|----|--|---|
| 6階 | [6階病棟] 小児科、成人混合、緩和病床、歯科口腔外科、皮膚科、麻酔科、糖尿病・内分泌内科 | |
| 5階 | [5階病棟] 地域包括ケア、眼科 | |
| 4階 | [4階西病棟] 内科（呼吸器・循環器）、外科（呼吸器）、HCU | [4階東病棟] 内科（消化器）、泌尿器科、外科（消化器・乳腺）、整形外科 |
| 3階 | 病院事業管理者室、院長室、副院長室、院長補佐室、主任部長室、医局、看護部室、医療安全対策室、感染対策室、事務局長室、第1・2応接室、総務課、経営企画課、病院統合等担当課、人事給与課、診療情報管理室、図書室（職員用）、講義室、クラークセンター | |
| 2階 | 小児科、眼科、泌尿器科、歯科口腔外科、耳鼻咽喉科、脳神経外科、婦人科 内視鏡センター、健康管理センター、中央手術室、中央材料室、超音波センター 人間ドック、臨床病理科、臨床検査科、ラジオアイソトープ検査室 | |
| 1階 | 内科、外科、整形外科、皮膚科、麻酔科、ペインクリニック内科・外科、リハビリテーション科、呼吸器センター、心臓血管センター、消化器センター、糖尿病センター（栄養相談室、フットケア外来）、リハビリテーションセンター、放射線科、リニアク治療室、MRI室、CT室、外来化学療法室、結石破碎治療室、救急処置室、薬剤部、会計、医事課、総合案内、周術期サポートセンター、予約センター、地域医療連携室 | |
| 地下 | 食堂・喫茶室、売店、栄養管理室 | |



施設認定

- 内科：日本内科学会認定医制度教育関連病院、日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度関連認定施設、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本高血圧学会専門医認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設、日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設
- 外科：日本外科学会外科専門医制度修練施設、日本消化器外科学会専門医修練施設、日本乳癌学会専門医制度関連施設、呼吸器外科専門医合同委員会認定関連施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本大腸肛門病学会認定施設、マンモグラフィー検診施設画像認定施設、日本食道学会全国登録認定施設
- 内科・外科：日本消化器内視鏡学会指導施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本消化管学会胃腸科指導施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本肝臓学会認定施設
- 整形外科：日本整形外科学会認定医制度研修施設、日本手外科学会研修施設
- 小児科：日本小児科学会小児科専門医研修施設
- 皮膚科：日本皮膚科学会認定専門医研修施設
- 麻酔科：日本麻酔科学会認定病院、日本緩和医療学会認定研修施設、日本ペインクリニック学会指定研修施設、日本頭痛学会准教育施設
- 泌尿器科：日本泌尿器科学会専門医教育施設
- 眼科：日本眼科学会専門医制度研修施設
- 放射線科：日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
- 臨床研修病院指定
- 兵庫県指定がん診療連携拠点病院指定
- 救急告示病院
- 地域医療支援病院

主な医療機器

- 64列マルチスライスCT（X線コンピューター断層撮影装置）
- 3テスラMRI（磁気共鳴断層装置）
- 超音波検査装置
- リニアック（放射線治療装置）
- RI（核医学検査装置）
- デジタル血管連続撮影（アンギオ）装置
- ESWL（体外衝撃波結石破碎）装置
- マンモグラフィー撮影装置
- 口腔外科用パノラマ装置
- Fat scan
- 手術支援ロボット（ダヴィンチ）
- HoLEPの装置
- 拡大内視鏡（消化器）
- ポリソムノグラフィー（睡眠時無呼吸症候群の診断）
- 血圧脈波検査装置（CAVI・ABI）
- 炭酸ガスレーザー
- 細径胸腔ビデオスコープ
- デジタルハイビジョン腹腔鏡
- カプセル内視鏡
- ダブルバルーン小腸内視鏡
- 3D内視鏡
- OCT（光干渉断層計）
- 気管支超音波内視鏡
- 消化管超音波内視鏡
- 血管内視鏡システム
- IABP（大動脈内バルーンポンプ）
- IVUS（血管内超音波検査装置）
- 臨床用ポリグラフ（心臓カテーテル用）
- 関節鏡手術システム
- X線骨密度測定装置（DEXA法）
- 節電図、誘発電位検査装置
- 全自動遺伝子解析装置
- 2色LED光源装置
- 生化学自動分析装置

外来診療科・受付時間 一般外来 (午前診)

月曜日～金曜日 午前 8:30～11:00 (初診・再診)

| 診療科 | | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|-------------------|-----------|--------------------|--------------------|---------|-----------------------|--------------------|
| 内科 | I | <初診担当医> | <初診担当医> | <初診担当医> | <初診担当医> | <初診担当医> |
| | II | 小川 弘之 | 合屋佳世子 | 田淵優希子 | 合屋佳世子 | 牧尾 登紀 |
| | III | 大畑 裕之 | 林 典子 | 堀野 次郎 | 第2・4週 貴野 (予約・紹介のみ) | 堀野 次郎 |
| | IV | 野嶋 祐兵 | 足達 英悟 | 栗本 哲哉 | 栗本 哲哉 | 伊原まどか |
| 呼吸器センター (内科V診) | | 二木 俊江 | 鈴木真優美 | 池田 聡之 | 日下部祥人 | 池田 聡之 |
| 外科 | I | 大西 直 | 根津理一郎 | 根津理一郎 | 宮寄 安晃 | 桧垣 直純 |
| | II | | | 林田 博人 | | 林田 博人 |
| | III | 上島 成幸 | | | | 足立 真一 |
| 消化器センター | 内科 | 小川 弘之 | 林 典子 | | | 堀野 次郎 |
| | 外科 | 大西 直 | 根津理一郎 | 根津理一郎 | 宮寄 安晃 | 足立 真一 |
| 呼吸器センター | 内科 | 二木 俊江 | 鈴木真優美 | 池田 聡之 | 日下部祥人 | 池田 聡之 |
| | 外科 | | | | | 桧垣 直純 |
| 脳神経外科 | | 山本 祥太 | | 寺田 栄作 | | 細見 晃一 |
| 整形外科 | I 初診のみ | 田邊 勝久 (予約・紹介のみ) | 中島 恭哉 (予約・紹介のみ) | 折戸 良 | 中島 恭哉 (予約・紹介のみ) | 粕谷 泰祐 |
| | II | 中島 恭哉 (予約・紹介のみ) | | | 田邊 勝久 (予約・紹介のみ) | |
| | III | | 田邊 勝久 (予約・紹介のみ) | | | |
| 小児科 | I | 門谷 眞二 | 三浦 夕子 | 松岡 収 | 三浦 夕子 | 門谷 眞二 |
| | II | 西村 圭祐 | 藤田 賢司 | 三浦 夕子 | 藤田 賢司 | 西村 圭祐 |
| 皮膚科 | I | 西谷 奈生 (予約・紹介のみ) | 西谷 奈生 | 李 和純 | 熊野 公子 | 西谷 奈生 (予約・紹介のみ) |
| | II | 李 和純 (予約・紹介のみ) | 木谷美湖野 | 松本由佳理 | 木谷美湖野 | 松本由佳理 (予約・紹介のみ) |
| 泌尿器科 | | 瀧内 秀和 | 上田 康生 | 瀧内 秀和 | 交替制 | 交替制 |
| | | 重坂 光二 | 重坂 光二 | 上田 康生 | | |
| 婦人科 | | 杉本 美樹 | 綾田 昌弘 | 綾田 昌弘 | 綾田 昌弘 | |
| 眼科 | I | 堀本 幸嗣 | 大井 順子 | 金山 雅子 | 堀本 幸嗣 | 堀本 幸嗣 |
| | II | 日山 英子 | 田代久美子 | 田代久美子 | 日山 英子 | 田代久美子 |
| 放射線科 | | 上田 忠 | 上田 忠 | 上田 忠 | 上田 忠 | 上田 忠 |
| | | 藤田 眞 | | | 藤田 眞 | 藤田 眞 |
| 麻酔科・ペインクリニック | | 松村 陽子 | 前田 倫 | 前田/松村 | 前田 倫 | 松村 陽子 |
| | | 徐 舜鶴 | 菅島 裕美 | 平井 康富 | 大森 学 | 前田 倫 |
| | | | 交替制 | | 交替制 | |
| 歯科口腔外科 | | 網野かよ子 (予約・紹介のみ) | 網野かよ子 | 網野かよ子 | 網野かよ子 | 担当医 |
| | | 応援医師 (予約・紹介のみ) | | | 応援医師 | |

※ 脳神経外科は一般診療および紹介患者の受入れを休止しています。

令和元年10月現在

専門外来 (午後診)

月曜日～金曜日 午後 1:00～3:00

| 診療科 | | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|--------------|---------|----------------------------|------------------------|-----------------------------|--|----------------------------|
| 内科 | I | 糖尿病・内分泌 貫野 (予約・紹介のみ) | 呼吸器 岡森 (予約・紹介のみ) | 呼吸器 豊田 (予約・紹介のみ) | 禁煙外来 鈴木 (14:00～14:30 予約・紹介のみ) | |
| | II | 消化器 小川 (予約・紹介のみ) | | 糖尿病・内分泌 合屋 (予約・紹介のみ) | | 糖尿病・内分泌 田淵 (予約・紹介のみ) |
| | III | 消化器 大畑 (予約・紹介のみ) | 消化器 福島 (予約・紹介のみ) | 神経内科 梶山 (予約・紹介のみ) | 消化器 小川 (予約・紹介のみ) | 消化器 大畑 (予約・紹介のみ) |
| | IV | 循環器 野嶋 (予約・紹介のみ) | 不整脈 神田 (予約・紹介のみ) | 循環器 南都 (予約・紹介のみ) | 消化器 鬻 (予約・紹介のみ) | |
| | V | 呼吸器 日下部 (予約・紹介のみ) | 呼吸器 鈴木 (予約・紹介のみ) | 呼吸器 池田 (予約・紹介のみ) | 呼吸器 二木 (予約・紹介のみ) | 呼吸器 石井 (予約・紹介のみ) |
| 外科 | I | | 消化器 根津 (予約・紹介のみ) | 消化器 根津 (予約・紹介のみ) | 消化器 宮寄 (予約・紹介のみ) | 呼吸器 桧垣 (予約・紹介のみ) |
| | II | 乳腺・内分泌 林田 (予約・紹介のみ) | | 乳がん検診 永井 千穂 (第1・3週のみ) | 乳腺・内分泌 林田 (予約・紹介のみ) | 乳腺・内分泌 林田 (予約・紹介のみ) |
| | III | 消化器 上島 (予約・紹介のみ) | | | 呼吸器 桧垣 (予約・紹介のみ) | 消化器 足立 (予約・紹介のみ) |
| 小児科 | 慢性外来 | 予防接種 (第2～5週) | 慢性外来 | 一般外来 | 内分泌外来 (第2・4週) | |
| 麻酔科・ペインクリニック | 透視下ブロック | 頭痛・顔面痛外来 | 緩和ケア外来 | 透視下ブロック | 透視下ブロック | |

令和元年10月現在

救急体制

当院では、西宮市の救急医療システムの中で、主に2次救急医療の役割を担っています。

《受入の対象となる患者さん》

- ◇ 地域の診療所からの紹介患者さん
- ◇ 救急車による搬送患者さん

地域の診療所で診療を受け、検査や入院が必要とされる患者さんのご紹介に対応します。

ご紹介いただける患者さんには“紹介状”をお渡しく下さい。

■中央病院の救急医療体制

令和元年10月現在

| 区分 | 月曜日 | 火曜日 | 水曜日 | 木曜日 | 金曜日 | 土曜日 |
|---------|-------------------------------|------------------|-------------|-------------|--|------------|
| 小児科2次救急 | 18:00～ 翌朝9:00 | 18:00～ 翌朝9:00 | — | — | — | — |
| 外科1次救急 | 〈第1・3・5週〉 18:00～ 翌朝8:00 | — | — | — | 18:00～ 翌朝8:00 | — |
| 外科2次救急 | 18:00～21:00 | 18:00～21:00 | 18:00～21:00 | 18:00～21:00 | 18:00～ 翌朝8:00 | 9:00～12:00 |
| 内科2次救急 | 18:00～21:00 | 18:00～ 翌朝8:00 | 18:00～21:00 | 18:00～21:00 | 〈第1週・最終週〉 18:00～21:00 〈上記以外の週〉 18:00～翌朝8:00 | 9:00～12:00 |

※月曜日～木曜日および土曜日の内科・外科2次救急は祝日は行いませんので、ご注意ください。

セカンドオピニオン外来

当院ではセカンドオピニオン外来を開設しています。現在、当院以外の医療機関にかかられている患者さんで、診断や今後の治療法などについて、主治医以外の医師の意見をお求めの方に対し、当院の専門医がセカンドオピニオンをご提供します。

なお、当院での検査・投薬は行いません。

セカンドオピニオン対象科・対象疾患等

※予約状況等の都合により、受診は担当日以外の曜日・時間帯となることがあります。

| 診療科 | 担当医師 | 専門分野 |
|-----|--------|----------------------|
| 内科 | 池田 聡之 | 呼吸器 |
| | 鈴木 真優美 | 呼吸器 |
| | 栗本 哲哉 | 循環器 |
| | 小川 弘之 | 消化器 |
| 外科 | 根津 理一郎 | 消化器（下部消化管） |
| | 大西 直 | 消化器（下部消化管） 鼠径ヘルニア |
| | 上島 成幸 | 消化器（肝胆膵） |
| | 林田 博人 | 乳腺・甲状腺 |
| | 桧垣 直純 | 呼吸器 |

問合せ先

西宮市立中央病院 地域医療連携室

電話 (0798) 64-1540

FAX (0798) 67-4896

消化器内科

| 診療内容の概要 | 特徴・特色 |
|-------------------------|--|
| 消化器（上部・下部消化管及び肝胆膵）疾患全般。 | <p>上部・下部消化管（小腸含む）の内視鏡的診断と治療（食道静脈瘤治療、止血術、ポリペクトミー、粘膜切除〈EMR〉、粘膜下層剥離〈ESD〉、胃ろう造設〈PEG〉、総胆管結石砕石〈EST〉、超音波内視鏡下穿刺術〈EUS-FNA〉など）</p> <p>急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変の診断と治療。</p> <p>肝癌の診断と治療。</p> <p>炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）の診断と治療。</p> <p>上部・下部消化管癌、肝・胆・膵、消化器癌の化学療法。</p> |




小川 弘之 (院長補佐 兼 内科主任部長 兼 消化器内科主任部長 兼 臨床検査科主任部長 兼 内視鏡センター長 兼 地域医療連携推進室長)

専門：消化器
資格：日本内科学会総合内科専門医、指導医
日本消化器病学会専門医、指導医
日本消化器内視鏡学会専門医、指導医
日本消化管学会胃腸科専門医、指導医
日本肝臓学会専門医、指導医
日本ヘリコクター学会ピロリ菌感染症認定医
日本医師会認定産業医
日本がん治療認定医機構認定医




大畑 裕之 (内科主任部長 兼 消化器内科主任部長 兼 超音波センター長)

専門：消化器
資格：日本内科学会指導医



堀野 次郎 (内科部長 兼 消化器内科部長)

専門：消化器



福島 寿一 (内科部長 兼 消化器内科部長)


専門：消化器
資格：日本内科学会認定医
日本肝臓学会専門医

林 典子 (内科部長 兼 消化器内科部長)

専門：消化器
資格：日本内科学会総合内科専門医、指導医
日本消化器病学会専門医
日本消化器内視鏡学会専門医
日本肝臓学会専門医
日本がん治療認定医機構認定医
日本消化管学会胃腸科専門医、指導医
日本医師会認定産業医

五味 久仁子 (内科医長)

専門：消化器
資格：日本小児科学会専門医



鬻 瑛 (内科医師)

専門：消化器
資格：日本内科学会認定医

呼吸器内科

| 診療内容の概要 | 特徴・特色 |
|---|--|
| <p>肺癌、肺炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、間質性肺炎、睡眠時無呼吸症候群、慢性咳嗽などの呼吸器疾患全般。</p> | <p>肺癌：肺癌ドックでの早期発見、外科との連携による手術療法、殺細胞性抗癌剤、分子標的剤、免疫チェックポイント阻害剤等による化学療法(外来化学療法も含む)、放射線療法等の集学的治療による個別化治療を促進し、根治、生存期間の延長を目指します。</p> <p>気管支喘息：吸入ステロイド療法を柱にした長期コントロール及び喘息死の撲滅を目標とします。</p> <p>COPD：禁煙指導、気管支拡張剤(吸入型)を中心とした長期コントロール及び在宅酸素療法、呼吸リハビリを行っています。</p> <p>睡眠時無呼吸症候群：1泊入院のポリソムノグラフィ検査で診断をし、CPAP治療の導入を行っています。</p> |



池田 聡之(副院長)

専門：呼吸器
資格：日本内科学会認定医、指導医
日本呼吸器学会専門医、指導医
大阪大学医学部臨床教授
兵庫医科大学臨床教育教授



鈴木 真優美 (内科部長
兼呼吸器内科部長)

専門：呼吸器
資格：日本内科学会総合内科専門医、指導医
日本呼吸器学会専門医、指導医
日本呼吸器内視鏡学会専門医
日本医師会認定産業医

二木 俊江 (内科医長)

専門：呼吸器
資格：日本内科学会総合内科専門医、指導医
日本呼吸器学会専門医、指導医
日本呼吸器内視鏡学会専門医
日本がん治療認定医機構認定医



日下部 祥人 (内科医長)

専門：呼吸器
資格：日本内科学会認定医
日本呼吸器学会専門医



石井 誠剛 (内科副医長)

専門：呼吸器
資格：日本内科学会認定医

豊田 成徳 (内科医師)

専門：呼吸器



岡森 仁臣 (内科医師)

専門：呼吸器

循環器内科

| 診療内容の概要 | 特徴・特色 |
|---|--|
| <p>高血圧、心不全、弁膜症、不整脈、冠動脈、末梢動脈疾患など循環器疾患全般。</p> | <ol style="list-style-type: none"> 冠動脈造影検査(CAG)、血行再建術(PCI) 閉塞性動脈硬化症(ASO)に対する血行再建術(EVT) 不整脈(心房細動、頻脈性不整脈など)、カテーテル治療、徐脈性不整脈に対する永久ペースメーカー植入 心臓超音波による心疾患精査(経食道心エコーを含む) 下肢血管エコーによる閉塞性動脈硬化症、深部静脈血栓症の診断 エルゴメーター負荷心電図、ATP負荷心筋シンチグラフィによる心筋虚血の診断 冠動脈CTによる虚血性心疾患の診断 皮膚組織灌流圧(SPP)検査導入による他科(皮膚科、糖尿病科)と連携したフットケアチーム医療 |



南都 伸介 (病院事業管理者 兼循環器内科顧問)

専門：循環器
冠動脈インターベンション
資格：日本内科学会認定内科医、指導医
日本循環器学会認定循環器専門医
日本心血管インターベンション治療学会名誉専門医
日本心臓血管内視鏡学会認定医、指導医
日本超音波学会認定超音波専門医、指導医



栗本 哲哉 (健康管理センター長 兼循環器内科主任部長 兼医療技術部長)

専門：循環器
資格：日本内科学会総合内科専門医、指導医
日本循環器学会専門医



野嶋 祐兵 (内科部長 兼循環器内科部長 兼心臓血管センター長)

専門：循環器
資格：日本内科学会総合内科専門医、指導医
日本循環器学会専門医
日本心血管インターベンション治療学会認定医

伊原 まどか (内科部長 兼循環器内科部長)

専門：循環器
資格：日本内科学会総合内科専門医、指導医
日本循環器学会専門医
日本医師会認定産業医
日本心臓リハビリテーション学会心臓リハビリテーション指導士



足達 英悟 (内科部長 兼循環器内科部長)

専門：循環器
資格：日本内科学会総合内科専門医、指導医
日本循環器学会専門医
日本心血管インターベンション治療学会認定医
日本心臓リハビリテーション学会心臓リハビリテーション指導士

非常勤医師紹介

神田 貴史 (関西労災病院循環器内科 心不全画像診断チーム主任)

専門：循環器
資格：日本内科学会認定内科医
日本循環器学会専門医
日本不整脈心電学会不整脈専門医

神経内科

| 診療内容の概要 | 特徴・特色 |
|---|---|
| <p>パーキンソン病、脊髄小脳変性症などの神経変性疾患、多発性硬化症、頭痛、末梢神経・筋疾患など。</p> | <p>週1回、神経内科専門医が神経疾患全般について専門外来を行っており、MRI、頸部血管エコー、脳波などの検査が可能です。ただし、末梢神経伝導検査、針筋電図検査や認知症の神経心理検査、脳血流SPECT検査などは行っておりません。また、脳卒中やてんかんなどの神経急性期疾患には対応しておりません。</p> |

非常勤医師紹介

梶山 幸司
元兵庫医科大学病院 神経・脳卒中科臨床准教授
担当：神経内科外来

資格：日本内科学会認定医
日本神経学会専門医
日本リハビリテーション医学会認定臨床医
日本脳卒中学会専門医

糖尿病・内分泌内科

| 診療内容の概要 | 特徴・特色 |
|---|---|
| <p><糖尿病> 生活習慣病としての糖尿病の管理からインスリンの外来導入、教育入院・治療まで、チーム医療で対応します。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●糖尿病専門外来を拡充し、週5日（月～金）の診療体制。 ●糖尿病センターでは包括的な糖尿病ケアを目標に、糖尿病チームが中心となり療養指導を行っています。フットケア外来と看護外来を開設しています。（予約制）。 ●通院でのインスリン治療の導入のため、インスリン導入外来を併設。 ●FGM機器を用いた持続血糖モニターが可能です。 ●内臓脂肪の定量測定（Fat scan）や血圧脈波検査（CAVI・ABI）が可能です、肥満や動脈硬化の評価を行います。 ●公開糖尿病教室（月4回、一般参加可）では、セルフケアを応援します。 |
| <p><内分泌代謝> 間脳下垂体疾患、副腎疾患、甲状腺疾患、二次性高血圧などの診断・治療</p> | <p>甲状腺超音波、シンチグラム、下垂体MRI、各種負荷試験が可能。</p> |



合屋 佳世子 （内科部長
兼糖尿病・内分泌内科部長
兼糖尿病センター長）

専門：糖尿病・内分泌代謝
資格：日本内科学会総合内科専門医
日本糖尿病学会専門医

田淵 優希子（内科医長）

専門：糖尿病・内分泌代謝
資格：日本内科学会認定医
日本糖尿病学会専門医
日本内分泌学会内分泌代謝科専門医

貫野 真由（内科副医長）

専門：糖尿病・内分泌代謝
資格：日本内科学会認定医

牧尾 登紀（内科副医長）

専門：糖尿病・内分泌代謝
資格：日本内科学会認定医
日本糖尿病学会専門医

田中 咲弥佳（内科医師）

専門：糖尿病・内分泌代謝

糖尿病看護認定看護師1名、日本糖尿病療養指導士11名、糖尿病療養指導士兵庫認定2名

■糖尿病教室のご案内

水曜または木曜の午後3時から医師・栄養士・薬剤師・理学療法士・看護師による「公開糖尿病教室」を開催しています。糖尿病は患者さんがどのような薬剤治療を行う場合でも、自己管理することが重要な病気です。糖尿病があっても健康な生活を過ごすには、糖尿病の正しい知識をもち、血糖をコントロールして、合併症を予防する必要があります。糖尿病教室は患者さんが糖尿病について正しく理解し、積極的に自己の生活管理ができるようになるための教室です。一般の方も予約無しでご参加いただけます。患者さんの療養にお役立てください。毎月のプログラムは病院ホームページをご覧ください。

■栄養指導のご案内

個別栄養指導

当院に入院・通院されている患者さん以外にも、地域の医療機関の先生方の指示のもと、管理栄養士が患者さん個々の生活習慣に応じた食生活をアドバイス致します。詳しくは地域医療連携室(0798-64-1540)へ電話でお問い合わせください。FAXにて栄養指導用診療情報提供書を送らせていただきます。

外 科

| 専門科 | 診療内容の概要 | 特徴・特色 |
|------------------------|-----------|--|
| 上部消化管 (担当:足立) | 食道癌、胃癌 | 放射線治療、化学療法、手術療法など様々な治療法を取り入れた集学的治療。適応症例に対しては鏡視下手術 |
| | 食道・胃良性腫瘍 | 鏡視下切除手術 胃の良性腫瘍に対しては内視鏡と腹腔鏡の合同手術 |
| 下部消化管 (担当:根津、大西、宮寄) | 大腸癌 | 極力低侵襲の腹腔鏡下手術 機能温存を目指した神経温存直腸切除術 できるだけ肛門を温存する超低位前方切除術 |
| | 大腸良性疾患 | 腹腔鏡下手術 直腸脱に対する腹腔鏡下直腸固定術 |
| | 炎症性腸疾患 | 内科と綿密な連携 腹腔鏡補助下手術 |
| | 虫垂炎 | 腹腔鏡下虫垂切除術 小児に対する単孔式腹腔鏡下手術 |
| 肝胆膵 (担当:上島) | 肝臓癌 | 肝予備能を考慮し、術前ナビゲーションを用いた肝癌切除術、小型肝癌に対する術中ラジオ波凝固療法(RFA)、マイクロ波凝固療法、適応症例に対しては腹腔鏡補助下肝切除術、化学療法、経肝動脈的化学療法を組み合わせた集学的治療 |
| | 膵臓癌・胆道癌 | 術前術後化学療法を組み合わせた根治切除術 化学療法、放射線治療を組み合わせた集学的治療 |
| | 胆石症 | 腹腔鏡下胆嚢摘出術・総胆管切石術、できるだけ単孔式手術 |
| ヘルニア (担当:大西) | 鼠径ヘルニア | 症例に合わせた腹腔鏡下ヘルニア修復術、前方からの修復手術、ヘルニア外来(毎週月曜日)でのチェック |
| 呼吸器外科 (担当:桧垣) | 原発性・転移性肺癌 | 鏡視下手術 新規分子標的薬を用いた化学療法 |
| | 縦隔腫瘍 | 鏡視下縦隔腫瘍切除術 |
| | 気胸 | 鏡視下肺嚢胞切除術 |
| 乳腺外科 (担当:林田) | 乳癌 | 乳癌検診 センチネルリンパ節生検と乳房温存手術 放射線治療、化学療法、ホルモン療法を組み合わせた集学的治療 |

- * 当科では低侵襲で患者さんにやさしい腹腔鏡・胸腔鏡下手術を積極的に導入しています。
- * 消化器病の診断から治療まで最先端技術を駆使し、患者さんに喜んでいただける医療を目指します。
- * 消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科の各専門医が担当させていただきます。
- * 癌疼痛をお持ちの患者さんに対して麻酔科の協力によりペインクリニックもいたしております。
- * 上の表に記載しているもの以外にも、対応可能なものがありますのでお尋ねください。
- * 休日・夜間も2名のオンコール体制で、緊急疾患に速やかに対応いたしますのでご連絡ください。



根津 理一郎 (院長)

専門：下部消化管外科
資格：
日本外科学会専門医、指導医
日本消化器外科学会専門医、指導医
日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
日本大腸肛門病学会専門医、指導医
日本静脈経腸栄養学会認定医



大西 直

(院長補佐
兼外科主任部長
兼消化器外科主任部長
兼消化器センター長
兼外来化学療法室室長)

専門：下部消化器外科、
鼠径ヘルニア、
腹腔鏡手術
資格：日本内視鏡外科学会技術認定医
日本外科学会専門医、指導医
日本消化器外科学会専門医、指導医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
日本大腸肛門病学会専門医、指導医



林田 博人 (外科主任部長
兼乳腺外科主任部長)

専門：乳腺・甲状腺外科
資格：日本外科学会専門医
日本乳癌学会認定医
日本消化器外科学会認定医
検診マンモグラフィ読影認定医AS



桧垣 直純 (外科主任部長
兼呼吸器外科主任部長
兼呼吸器センター長)

専門：呼吸器外科、消化器外科
資格：日本外科学会専門医、指導医
日本呼吸器外科学会専門医、評議員
肺がんCT検診認定医師
日本呼吸器学会専門医
日本消化器外科学会認定医
日本消化器病学会専門医、指導医
日本消化器内視鏡学会専門医
日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医



上島 成幸 (外科主任部長
兼消化器外科主任部長
兼救急室室長
兼同僚サポートセンター長
兼医療安全対策室室長)

専門：消化器外科 (特に肝胆膵)
資格：日本外科学会専門医
日本大腸肛門病学会専門医



足立 真一 (外科部長
兼消化器外科部長)

専門：上部消化管
資格：日本外科学会専門医、指導医
日本消化器外科学会専門医、指導医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
緩和ケア研修・がんリハビリテーション研修修了



宮崎 安晃 (外科部長
兼消化器外科部長)

専門：下部消化管
肛門疾患
資格：日本外科学会専門医、指導医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
日本静脈経腸栄養学会TNT研修会修了
近畿外科学会評議員



河中 聡之 (外科医師)

専門：呼吸器外科

整形外科

| 専門科 | 診療内容の概要 | 特徴・特色 |
|---------|--|---|
| 手・肘・肩疾患 | 上肢の腱・神経損傷・骨折など外傷、腱鞘炎、手根管症候群、肘部管症候群、デュブイトレン拘縮、野球肘・肩などのスポーツ障害、肩腱板損傷、肩関節脱臼、リウマチの手・肘・肩、手足の先天的異常など。 | 手・肘・肩の疾患に対する全般的治療を行っています。骨折全般、ばね指、手根管症候群からスポーツ肘・肩、肩腱板損傷まで幅広く診療しております。低侵襲手術・関節鏡手術・保存的治療・リハビリテーションを含む最良の治療を心がけています。 |
| 外傷性疾患 | 大腿骨頸部骨折、橈骨遠位端骨折、上腕骨近位端骨折、肘脱臼骨折等、四肢各部位の外傷・骨折など。 | 四肢外傷性疾患に対しての可及的早期の手術、正確な治療選択、術後早期からのリハビリテーションを行っています。 |
| 関節疾患 | 変形性膝関節症、関節リウマチによる膝関節症、化膿性関節炎など。 | 変形性膝関節症に対する人工関節置換手術(TKA)を行っています。人工関節置換術には自己血輸血をほとんど使用していません。 |
| その他 | 骨粗鬆症など。 | |



田邊 勝久 (整形外科部長
兼リハビリテーション科部長
兼リハビリテーションセンター長)

専門：手の手術、肘の手術
肩の手術、末梢神経外科
資格：日本整形外科学会専門医
日本整形外科学会第14回研修指導者講習会受講
日本整形外科学会認定スポーツ医
日本手外科学会専門医
日本整形外科学会認定リウマチ医
日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医
日本骨粗鬆症学会認定医

渡邊 牧代 (整形外科医長)

専門：整形外科一般、手・肘の外科
資格：日本整形外科学会専門医



中島 恭哉 (整形外科部長
兼リハビリテーション科部長
兼リハビリテーションセンター部長)

専門：四肢の骨折、骨粗鬆症、
人工膝関節、人工股関節
資格：日本整形外科学会専門医
日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医
日本整形外科学会認定スポーツ医
日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医
日本整形外科学会認定リウマチ医
日本骨粗鬆症学会認定医
日本リハビリテーション医学会認定臨床医
日本リウマチ財団登録医
麻酔科標榜医

非常勤医師紹介

折戸 良

専門：整形外科一般
資格：日本整形外科学会専門医

粕谷 泰祐

専門：整形外科一般

小児科

| 診療内容の概要 | 特徴・特色 |
|---|---|
| <p>気管支炎、胃腸炎などの感染症を中心に、喘息発作、その他、新生児から中学生までの子供たちのいろいろな問題に対処しています。</p> <p>当院では専門的に小児内分泌疾患（低身長・甲状腺疾患等）、小児糖尿病、心身症、てんかん等の神経疾患、発達障害（ADHD）に対応ができます。</p> | <p>地域に密着した小児科医院、小児科クリニックとの連携を大切にした、地域の病院としての役割を担っています。</p> <p>臨床心理士によるカウンセリングや発達テスト、心理テストも行っています。</p> |

専門外来

- 乳幼児検診……発育発達に関する事柄と育児相談。
- 特殊発達外来…西宮市立こども未来センターと共同。
- 予防接種外来…三種混合・麻疹・風疹・水痘・おたふくかぜワクチン・Hibワクチン・肺炎球菌ワクチン・BCG・日本脳炎・インフルエンザ(時期限定)・ポリオ・B型肝炎、ロタウイルス。
- 神経外来……てんかんを中心。神経疾患対応。
- 慢性外来……内分泌疾患・小児糖尿病(インスリンポンプの導入)・気管支喘息・アトピー性皮膚炎・心身症・発達障害・川崎病・乳児血管腫等のフォロー。



門谷 眞二 (小児科部長)

専門：小児科全般
小児糖尿病・感染症
資格：日本小児科学会専門医、指導医



三浦 夕子(小児科部長)

専門：小児科全般
新生児
資格：日本小児科学会専門医
新生児蘇生法「専門」ユースインストラクター



藤田 賢司 (小児科副医長)

専門：小児科全般
小児神経・感染症
資格：日本小児科学会専門医
新生児蘇生法「専門」ユースインストラクター

西村 圭祐 (小児科医師)

専門：小児科全般



上好 あつ子 (臨床心理士)

専門：発達の遅れ(ことば、コミュニケーションなど)、自閉症、学習障害、ADHD、不登校、心身症

非常勤医師紹介

松岡 収、岩越 美恵、中島 良一、
菅原 祐一、堀田 優子

皮膚科

| 診療内容の概要 | 特徴・特色 |
|--|--|
| 皮膚外科疾患：皮膚腫瘍（悪性腫瘍を含む）の切除・再建、皮膚潰瘍、熱傷、褥瘡、陥入爪、巻き爪。 | 入院・通院で、腫瘍切除、植皮、皮弁など手術を含めた治療（局所陰圧閉鎖療法を含む）。 |
| 免疫アレルギー性皮膚疾患：水疱症、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、薬剤アレルギー、接触性皮膚炎。 | 原因や増悪因子の検索と症状経過に応じた治療。皮内テスト・パッチテストなどに対応しています。中等度以上のアトピー性皮膚炎に対してデュピルマブ投与可能です。 |
| その他の皮膚疾患：蜂巣炎、丹毒、乾癬、帯状疱疹、脱毛症、各種皮膚感染症など。 | 入院治療可。乾癬の生物学的製剤使用承認施設。NB-UVB、PUVA、免疫療法(SADBE)。 |

* 皮内テスト・パッチテストのみの依頼、皮膚生検のみの依頼にもできる限り対応します。

* CO₂レーザーにて老人性疣贅、汗管腫、眼瞼黄色腫等にも対応します。

西谷 奈生（皮膚科部長）

専門：アレルギー、皮膚科全般

資格：日本皮膚科学会認定

皮膚科専門医

李 和純（皮膚科副医長）

専門：皮膚科全般

松本 由佳理（皮膚科医師）

専門：皮膚科全般

木谷 美湖野（皮膚科医師）

専門：皮膚科全般

非常勤医師紹介

熊野 公子

専門：皮膚外科学、皮膚悪性腫瘍

ハンセン病

泌尿器科

| 診療内容の概要 | 特徴・特色 |
|---|--|
| <p>泌尿器悪性腫瘍：副腎腫瘍、腎癌、腎盂癌、尿管癌、膀胱癌、前立腺癌、尿道癌、精巣腫瘍など。</p> <p>尿路結石症：腎・尿管・膀胱結石。</p> <p>尿路感染症：腎盂腎炎、膀胱炎、前立腺炎など。</p> <p>排尿障害疾患：前立腺肥大症、尿失禁など。</p> <p>小児疾患：夜尿症、停留精巣、真性包茎など。</p> <p>女性疾患：腹圧性尿失禁、膀胱瘤、子宮脱、直腸脱</p> | <p>ロボット補助下前立腺全摘術、ロボット補助下腎部分切除術。</p> <p>副腎腫瘍、腎腫瘍、前立腺癌、膀胱癌に対する3次元内視鏡下ナビゲーション腹腔鏡手術、人工尿道括約筋埋め込み術。</p> <p>MRI画像を用いたナビゲーション前立腺生検。</p> <p>前立腺肥大症に対するレーザー手術。</p> <p>ウルフ社（ドイツ）製の体外衝撃波結石破碎装置による碎石治療。レーザーを用いた内視鏡下結石破碎治療。</p> <p>膀胱瘤、子宮脱、直腸脱に対するTVM手術。</p> <p>腹圧性尿失禁に対するTVT手術、TOT手術。</p> |



瀧内 秀和 (院長補佐
兼泌尿器科主任部長)

専門：泌尿器科全般

悪性腫瘍、腹腔鏡手術、レーザー前立腺手術、手術ナビゲーション

資格：日本泌尿器科学会専門医、指導医

日本泌尿器科学会泌尿器腹腔鏡技術認定医

日本コンピュータ外科学会評議員

ダヴィンチサージカルシステム認定医



上田 康生 (泌尿器科部長)

専門：泌尿器科全般、腎移植

資格：日本泌尿器科学会専門医、指導医

日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医

日本内視鏡外科学会認定技術認定医（泌尿器腹腔鏡）

日本がん治療認定医機構がん治療認定医

日本臨床腎移植学会腎移植認定医

ダヴィンチサージカルシステム認定医

重坂 光二 (泌尿器科医師)

専門：泌尿器科全般

眼 科

| 診療内容の概要 | 特徴・特色 |
|---|--|
| <p>眼科一般、白内障、緑内障、糖尿病網膜症、ぶどう膜炎、斜視、弱視検査及び訓練、身体障害認定、特定疾患認定</p> <p>手術対応：白内障（眼内レンズ移植）、レーザー治療（網膜、虹彩、白内障術後の後発白内障）</p> <p>眼瞼、結膜の外来手術</p> | <p>常勤医師 1 名、非常勤医師 4 名、視能訓練士 3 名で診療しています。</p> <p>白内障、緑内障、ぶどう膜炎、ドライアイなどの一般的な眼科疾患のほか、糖尿病内科、皮膚科、栄養管理室などとともに、糖尿病チームをつくり、総合的な糖尿病管理をおこなっています。受診、糖尿病教室を通じ、糖尿病のコントロールの重要性、定期的な眼底検査の必要性を知っていただき、適切な時期にレーザー治療などをおこない、合併症による視力低下を防ぐことを、目標にしています。</p> <p>硝子体手術などのさらに高度な治療が必要な際は、近隣の大学病院や、適切な施設への橋渡しをいたします。</p> <p>白内障は、現在原則的に 2 日の入院でおこなっています。</p> <p>2018 年度には 390 件の白内障手術をおこないました。</p> <p>手術は、その他、眼瞼内反症、眼瞼皮膚弛緩、翼状片などをおこなっています。</p> <p>視能訓練士は、眼科検査一般、視野（ゴールドマン、ハンフリー）OCT などをおこない、一方本来の業務として斜視、弱視の検査、訓練の予約を取り丁寧におこなっています。</p> <p>3 歳児検診などで、受診を勧められた場合は、早めに受診されるようおすすめします。</p> |



田代 久美子(眼科医務顧問)

専門：眼科全般

資格：日本眼科学会専門医

堀本 幸嗣(眼科部長)

専門：眼科全般

資格：日本眼科学会専門医

非常勤医師紹介

日山 英子

専門：眼科全般

資格：日本眼科学会専門医

金山 雅子

専門：眼科全般

資格：日本眼科学会専門医

大井 順子

専門：眼科全般

麻酔科、ペインクリニック内科・外科、疼痛・緩和センター

| 診療内容の概要 | 特徴・特色 |
|---|--|
| <p>麻酔：当科は麻酔科学会認定指導医、専門医が常勤しています。2018年麻酔科管理症例822例。</p> <p>術前外来：月・水・金曜日</p> <p>ペインクリニック：外来診療（3診）は週5日連日行い、透視下ブロックを週3回（月・木・金曜日）実施しています。</p> <p>入院診療は、脊髄刺激療法、硬膜外内視鏡、三叉神経節高周波熱凝固神経形成術などの低侵襲治療を行い、また坦癌患者も含めた緩和医療も行っていきます。緩和ケア病床2床。</p> | <p>高齢化・合併症例の増加にも関わらず、麻酔による重大な偶発症は発生していません。術前評価、術後鎮痛も含めて安全で確実な周術期管理を行っています。今後とも安全で良質な麻酔を行っていきます。</p> <p>当院は日本ペインクリニック学会認定施設となっています。あらゆる痛みを対象とし、筋骨格系の椎間板ヘルニア・腰部脊柱管狭窄症など神経ブロック低侵襲治療で集学的に治療しています。</p> <p>頭痛、三叉神経痛、非定型顔面神経痛など頭痛に関する専門外来を設けています（火曜日・午後）。顔面・眼瞼痙攣、痙性斜頸、脳血管障害後の痙縮、重症の腋窩多汗症に対してボツリヌス毒素による治療も行っていきます。</p> |



前田 倫 (麻酔科主任部長
兼ペインクリニック内科・外科主任部長
兼疼痛・緩和センター長)

専門：麻酔科
ペインクリニック（痛みの治療）、
頭痛診療、緩和医療

資格：日本麻酔科学会指導医
日本ペインクリニック学会専門医・評議員
日本頭痛学会専門医、指導医・代議員
日本緩和医療学会専門医・代議員
日本仙腸関節研究会幹事
日本慢性疼痛学会評議員
大阪大学麻酔科学教室臨床教授
兵庫医科大学麻酔科臨床教授



松村 陽子 (麻酔科部長
兼ペインクリニック内科・外科部長
兼中央手術室室長)

専門：麻酔科、ペインクリニック、
漢方医学

資格：日本麻酔科学会指導医
日本ペインクリニック学会専門医
日本東洋医学会認定医
日本頭痛学会専門医



平井 康富 (麻酔科部長
兼ペインクリニック内科・外科部長)

専門：麻酔一般

資格：日本救急医学会救急科専門医
日本心臓血管インターベンション治療学会認定医
日本抗加齢医学会専門医
日本医師会認定産業医



徐 舜鶴 (麻酔科医長
兼ペインクリニック内科・外科医長)

専門：麻酔科、ペインクリニック

資格：日本麻酔科学会専門医
日本周術期経食道心エコー認定医
日本心臓血管麻酔学会専門医
日本ペインクリニック学会専門医



菅島 裕美 (麻酔科副医長
兼ペインクリニック内科・外科副医長)

専門：麻酔科、ペインクリニック

資格：日本麻酔科学会専門医



大森 学 (麻酔科医師
兼ペインクリニック内科・外科医師)

専門：麻酔科、ペインクリニック

資格：日本麻酔科学会認定医
日本医師会認定産業医

歯科口腔外科

| 診療内容の概要 | 特徴・特色 |
|--|---|
| <p>歯、口腔、顎、唾液腺の腫瘍を含む口腔内疾患の外科的処置。</p> <p>入院手術例：口腔悪性腫瘍切除及びリンパ節郭清術、良性腫瘍、顎骨骨折、顎変形症、舌強直症、埋伏歯、顎及び口腔底のう胞、唇裂、口蓋隆起、上顎洞炎、その他。</p> <p>外来手術例：埋伏智歯、のう胞、腫瘍。</p> | <p>一例一例を大切に、診断から手術、さらに長期間の経過観察を同じ口腔外科医が担当し、患者さんとのコミュニケーションを大切にしよう努力しています。全身疾患のある患者さんの口腔外科的処置については、他科の協力を得て治療にあたっています。</p> <p>前癌病変の治療、口腔癌の早期発見に力をいれています。</p> <p>呼吸器疾患、各種疾患患者さんの口腔管理、ビスフォスフォネート製剤使用前の口腔管理、当院における周術期口腔管理にも力を入れています。</p> <p>口腔内の細菌量計測のため細菌カウンタを設置しています。</p> <p>他院から薬剤関連顎骨壊死の紹介も増加しています。</p> <p>睡眠時無呼吸症候群における口腔内装置の作成も行っています。</p> <p>外傷による歯欠損にはインプラントを導入しています。</p> <p>埋伏歯抜歯の症例は、患者さんと相談のうえで初診当日の抜歯も可能です。地域医療連携室にご相談ください。</p> |

専門外来

口腔腫瘍外来・顔面口腔外傷骨折外来・粘膜疾患外来

網野 かよ子 (歯科口腔外科主任部長
兼感染対策室室長)

専門：口腔腫瘍・粘膜疾患

資格：日本口腔外科学会認定口腔外科専門医、指導医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
(歯科口腔外科)

Infection Control Doctor

日本化学療法学会抗菌化学療法認定歯科医師

臨床病理科

綾田 昌弘 (臨床病理科主任部長
兼産婦人科主任部長)

資格：日本病理学会病理専門医、指導医
日本臨床細胞診学会細胞専門医、指導医



脳神経外科

| 診療内容の概要 | 特徴・特色 |
|---|--|
| <p>脳腫瘍、脳血管障害（脳出血、脳梗塞）、その他（正常圧水頭症、慢性硬膜下血腫、三叉神経痛、片側顔面痙攣、頭痛、片頭痛、めまいなど）。</p> <p>頭部CT検査は診察後、当日に可能。</p> <p>頭部MRI・MRAは診察の上、予約必要。</p> <p>院内紹介のみ。入院・手術・血管内治療・放射線治療が必要な場合は他施設を紹介。</p> | <p>MRI、MRAを使った脳ドック診療により、未破裂脳動脈瘤、脳腫瘍、脳梗塞などの早期発見に努めています。</p> <p>MRI機種は、MAGNETOM Skyra 3T</p> |

非常勤医師紹介

細見 晃一

専門：脳神経外科一般
機能的脳神経外科
（難治性疼痛、パーキンソン病などの不随意運動症、痙攣、難治性てんかんの外科的治療）
資格：日本脳神経外科学会専門医
日本脳卒中学会専門医
機能的定位脳手術技術認定医

山本 祥太

専門：脳神経外科一般
資格：日本脳神経外科学会専門医

寺田 栄作

専門：脳神経外科一般

耳鼻咽喉科

平成31年4月より耳鼻咽喉科外来は休診させていただきます。

放射線科

| 診療内容の概要 | 特徴・特色 |
|--|---|
| 放射線診断部門：一般撮影、マンモグラフィー、透視撮影、64列マルチスライスCT、3テスラMRI、血管撮影、核医学検査(RI)。 | 各領域を網羅した診療業務を行い、血管系のみならず非血管系IVRにも幅広く対応しています。充実した画像診断システムを地域医療に還元するため、MRI、CTなど画像診断のみの紹介も放射線科が窓口となって積極的に受け入れ、画像診断・IVRに関するコンサルテーションも歓迎しています。 |
| IVR（放射線診断技術の治療への応用）：肝細胞癌に対する動脈化学塞栓術（TACE）、咯血や吐下血に対する血管造影による緊急止血、閉塞性黄疸に対するPTCDや金属ステント留置、膿瘍に対するドレナージなど | |
| 放射線治療部門：ライナックによる放射線治療。 | |



藤田 眞 (放射線科医務顧問)

専門：画像診断・IVR

資格：日本医学放射線学会放射線診断専門医

日本IVR学会専門医



上田 忠 (放射線科部長)

専門：画像診断一般

資格：日本医学放射線学会放射線診断専門医

検診マンモグラフィー読影認定医師

放射線科では、ご紹介により各種検査を承っています。
詳しくは本誌52ページ、53ページをご参照ください。

産婦人科

| 診療内容の概要 | 特徴・特色 |
|-------------------------------|--|
| 婦人科内分泌：月経困難症、過多月経、月経不順、更年期不安症 | 女性ホルモンに関する治療と子宮頸癌、子宮内膜癌の癌検査を中心に診療しています。不安症、不眠症、月経前のいらいら、月経痛、不正出血などご相談ください。女性ホルモンの測定や骨密度の測定も行っています。 |



綾田 昌弘 (臨床病理科主任部長
兼産婦人科主任部長)

資格：日本病理学会病理専門医、指導医

日本臨床細胞学会細胞専門医、指導医

消化器センター

| 診療内容の概要 | 特徴・特色 |
|------------------------|---|
| 消化器（上部・下部消化管及び肝胆膵）疾患全般 | 消化器疾患には上部消化管、下部消化管、肝胆膵の良性疾患、悪性疾患があるため非常に多岐にわたります。時にこの病態はどの科のどの医師に診察してもらうべきか判断に迷う事があります。そこで当院では消化器センターを開設しております。従来のような特定の医師宛のご紹介でなくても、消化器センター宛にご紹介いただけましたら然るべき専門医が担当いたします。消化器センターでは消化器内科医、消化器外科医の他、放射線科、看護師、管理栄養士の各スタッフがほぼ毎週集まり、困難症例検討会やカンサーボードを開いています。ここでは高度な内視鏡技術、腹腔鏡手術、高精度な画像診断を用いた適切な治療方針を検討しています。 |



根津 理一郎
院長



大西 直
院長補佐
兼外科主任部長
兼消化器外科主任部長
兼消化器センター長
兼外来化学療法室室長



小川 弘之
院長補佐
兼内科主任部長
兼消化器内科主任部長
兼臨床検査科主任部長
兼内視鏡センター長
兼地域医療連携室室長



大畑 裕之
内科主任部長
兼消化器内科主任部長
兼超音波センター長



桧垣 直純
外科部長
兼呼吸器外科部長
兼呼吸器センター長



上島 成幸
外科部長
兼消化器外科部長
兼救急室室長
兼周術期サポートセンター長
兼医療安全対策室室長



堀野 次郎
内科部長
兼消化器内科部長



福島 寿一
内科部長
兼消化器内科部長



足立 真一
外科部長
兼消化器外科部長



宮崎 安晃
外科部長
兼消化器外科部長

林 典子
内科部長
兼消化器内科部長

五味 久仁子
内科医長



鬻 瑛
内科医師

呼吸器センター

| 診療内容の概要 | | 特徴・特色 |
|---------|---|--|
| 肺 | 腫瘍性疾患：肺がん、良性肺腫瘍。 感染性疾患：肺炎、気管支炎、肺真菌症、肺化膿症。 閉塞性疾患：慢性閉塞性肺疾患(COPD)、気管支喘息。 間質性疾患：間質性肺炎。 膿疱性疾患：気胸。 その他：慢性呼吸不全、サルコイドーシス、塵肺症、肺胞蛋白症、慢性咳嗽。 | <ul style="list-style-type: none"> 診療科の枠組みを超えて、より効率的な診断、治療を行っています。医師、看護師のみならず薬剤師、臨床検査技師、理学療法士を含めたチーム体制が特徴です。 肺癌の診断には気管支鏡検査の他、エコーガイド下経皮肺生検、胸腔鏡下肺生検にて、より早期に確実な診断を心がけています。 内科、外科、放射線科のそれぞれの呼吸器専門医が集まり個々の症例について検討し、最新かつ最良の治療を提供できるよう努力しています。 治療と並行して症状の緩和も必要不可欠であると考えており、緩和ケアチームと連携して積極的なケアを行っています。 COPDなどの慢性呼吸不全に対しては呼吸リハビリ、在宅酸素、NPPVと包括的治療を行っています。 睡眠時無呼吸症候群に対しては、1泊2日のポリソムノグラフィーによる精密検査を行っています。 |
| 縦隔 | 縦隔腫瘍(胸腺腫、奇形腫、悪性リンパ腫)、縦隔気腫。 | |
| 胸膜 | 悪性胸膜中皮腫、胸膜炎(癌性、細菌性、結核性)。 | |
| 睡眠障害 | 睡眠時無呼吸症候群。 | |



池田 聡之

副院長



桧垣 直純

外科部長
兼呼吸器外科部長
兼呼吸器センター長



鈴木 真優美

内科部長
兼呼吸器内科部長

二木 俊江

内科医長



日下部 祥人

内科医長



石井 誠剛

内科副医長



豊田 成徳

内科医師



岡森 仁臣

内科医師



河川 聡之

外科医師

内科
外科
整形外科
小児科
皮膚科
泌尿器科
眼科
麻酔科
口腔科
臨床検査科
脳神経科
耳鼻咽喉科
放射線科
産婦人科
消化器センター
呼吸器センター
心臓血管センター
内視鏡センター
糖尿病センター
超音波センター
消化器科
薬剤部
臨床検査科
外来化学療法室
看護部
緩和ケア推進対策委員会
栄養管理室
NST
感染対策室
医療安全対策室
臨床工学科

心臓血管センター

当院の循環器内科では、循環器疾患全域において診療を行っています。高度で安全な医療を提供できるよう、専門性の高い複数のチームを結成し、多職種のスタッフと密に連携・協力しながら「心臓血管センター」としての診療に取り組んでいます。

また、従来よりも精度の高い心臓・血管カテーテル治療を受けていただけるよう、平成28年10月末に、新しいアンギオ室をオープンいたしました。高精細のX線画像を誇る、最新鋭の循環器内科専用アンギオグラフィ装置を備えていることに加え、カテーテル治療の領域で名高い南都事業管理者の監督の下、他職種で結成された「心臓血管センター」のスタッフが日々、知識・技術の修練に努めておりますので、患者さんにはより安心して受診いただける体制となっております。

■循環器内科チーム

主に心臓や血管の疾患の治療を行います。循環器系の全領域を担当しており、各種検査、薬物療法から冠動脈造影検査、PCI治療、EVT治療、カテーテルアブレーション治療、ペースメーカー植え込み術まで幅広く手掛けています。

主な対応疾患

- ・【心臓】心不全、虚血性心疾患、心筋症、弁膜症、不整脈
- ・【血管】閉塞性動脈硬化症、重症下肢虚血、大動脈・末梢動脈疾患
- ・【全身】難治性高血圧

■生理機能検査チーム

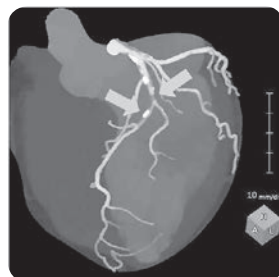
循環器疾患の診断と病態の評価に不可欠となる、多種多様な検査を実施しています。これらの検査は低侵襲で、患者さんに繰り返し安全に受けていただくことができるため、心臓や血管の病態評価に積極的に活用し、個々の治療方針の決定や治療効果の判定に役立てています。

主な検査

安静時12誘導心電図・ホルター心電図・負荷心電図(マスター階段昇降、エルゴメータ)・超音波検査(経胸壁心エコー・経食道心エコー・各種血管エコーなど)・血圧脈波検査(ABI)・皮膚還流圧検査

■画像診断検査チーム

64列MDCTを用いた検査により、入院なしに10分程度の撮像で冠動脈評価を行うことができるようになりました。Volume rendering法(VR法)、Curved MRR法、lumen view法、Slab MIP法などを用いて、狭窄のみならずplaqueの質についても詳細に評価しています。また、心筋血流シンチにて虚血の検査も行っています。大動脈、末梢血管についても、CT、MRIを用いて3D画像を構築し、より正確な診断に資するよう役立てています。



■心臓リハビリセンター

心筋梗塞や心不全で低下した心臓及び全身の機能を改善し、再発・再入院を予防したり、生活の質(QOL)を向上できるよう、心臓リハビリテーションに取り組んでいます。個々の患者さんに対し、多職種からなるチーム(医師、看護師、理学療法士、作業療法士、臨床検査技師、栄養士等)が協調・連携することで、より効果の高いリハビリ(医学的評価、運動負荷試験等の運動療法、生活指導、患者教育等)を実施しています。

■フットケアチーム

下肢血流障害によって、安静時の疼痛や、壊疽、感染が認められた患者さんに対し、専門的なケアを行っています。皮膚科医師による創部の処置をはじめとして、皮膚組織還流圧(SPP)検査導入による皮膚科及び糖尿病・内分泌内科の連携のほか、糖尿病を合併する場合には、糖尿病重症化予防研修(フットケア研修)を受けた看護師との密接な連携の下でケアを行います。



内視鏡センター

| 診療内容の概要 | 特徴・特色 |
|-------------------------|---|
| 消化器（上部・下部消化管及び肝胆膵）疾患全般。 | 上部・下部消化器疾患の診断と治療、内視鏡的治療（ポリペクトミー、粘膜切除〈EMR〉、粘膜下層剥離〈ESD〉、止血術、食道静脈瘤治療、胃ろう造設〈PEG〉、総胆管結石砕石〈EST〉など）。 |



小川 弘之

院長補佐
兼内科主任部長
兼消化器内科主任部長
兼臨床検査科主任部長
兼内視鏡センター長
兼地域医療連携室室長



大西 直

院長補佐
兼外科主任部長
兼消化器外科主任部長
兼消化器センター長
兼外来化学療法室室長



大畑 裕之

内科主任部長
兼消化器内科主任部長
兼超音波センター長



桧垣 直純

外科部長
兼呼吸器外科部長
兼呼吸器センター長



上島 成幸

外科部長
兼消化器外科部長
兼救急室室長
兼周術期サポートセンター長
兼医療安全対策室室長



堀野 次郎

内科部長
兼消化器内科部長



福島 寿一

内科部長
兼消化器内科部長



足立 真一

外科部長
兼消化器外科部長



宮崎 安晃

外科部長
兼消化器外科部長

林 典子

内科部長
兼消化器内科部長

五味 久仁子

内科医長



鬻 瑛

内科医師

非常勤医師紹介

青山 伸郎（医務顧問）

青山内科クリニック：胃大腸内視鏡/IBDセンター
資格：日本消化器内視鏡学会専門医、指導医
日本消化器学会専門医、指導医
元神戸大学医学部附属病院准教授
光学医療診療部（内視鏡部）部長

中川 須美子

専門：消化器
資格：日本外科学会認定医
日本消化器内視鏡学会専門医

内視鏡センターでは、ご紹介により各種検査を承っています。詳しくは本誌54ページをご参照ください。

糖尿病センター

合屋 佳世子
糖尿病センター長

最近の薬物療法では、新規製剤が次々と登場し選択肢が大きく拡がりました。多様な薬物治療が可能となりましたが、単にコントロール指標の目標達成を目指して治療を強化していると、患者さんが薬物介入による様々なリスクを負う可能性がでてきます。患者さんの病歴や合併症などの病状・病態の把握だけでなく、心理的・社会的・経済的な患者背景についても理解するアプローチが、個々の治療方針を決める上で必要であると感じています。



当センターはオープンから11年目となり、指導ケア部門では、フットケア、栄養指導、看護指導外来、糖尿病透析予防外来を開設しています。できるだけ診察に合わせ、患者指導・ケアを実施できる体制を整えました。それぞれの専用室では、ケアや指導を通して療養相談を行うことで、安心できる糖尿病治療を患者さんに提供できるよう心がけています。

糖尿病診療部門では、現在担当医5名体制で、下記担当表の通り毎日行っています。また糖尿病チーム(糖尿病看護認定看護師、日本糖尿病療養指導士、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、看護師、眼科、皮膚科、小児科、地域医療連携室のメンバーで構成)を中心に、糖尿病教室やインスリン外来を担当し、関連職種スタッフが連携して診療を行っています。

先生方の糖尿病診療にお役に立てるよう、チーム一丸となって取り組む所存です。さらに活用していただけるようなセンターを目指していますので、今後ともご協力ご指導よろしくお願いいたします。

- ◎日本糖尿病学会専門医 3名
- ◎糖尿病看護認定看護師 1名
- ◎日本糖尿病療養指導士 11名：看護師7名、薬剤師2名、管理栄養士1名、リハビリ1名
- ◎糖尿病療養指導士兵庫認定 2名：看護師1名、臨床検査1名

■糖尿病センター担当予定表

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|--------------|----------|----------|----------------|----------------|---------------|
| 午前診療 | — | 合屋 | 田淵 | 合屋 | 牧尾 |
| 午後診療 | 貫野 | — | 合屋 | | 田淵 |
| ケア外来 (午後) | 栄養 相談 | 療養 指導 | フットケア・ 栄養相談 | フットケア・ 療養指導 | 透析予防・ 栄養相談 |



超音波センター

大畑 裕之
超音波センター長

超音波検査は、非侵襲的に病変を検出することができるため、患者さんにも安心して受けていただける検査です。多くの臓器の生体情報が得られるため、診断・治療に欠くことのできない検査法です。

当院の超音波検査のセンター化は2015年で、場所は病院2階の臨床検査科エリアにあります。腹部・心臓・乳腺・血管(頸動脈、下肢血管など)・表在・甲状腺が主な検査対象です。この数年は消化管やより



細分化した脈管検査(腎動脈、下肢動脈など)に取り組んでおり、増加してゆく検査ニーズに的確に対応しております。病変の存在診断のみならず、深達度や脈管侵襲の有無など質的診断の精度を高めて参ります。今後も患者さんにより効率的で質の高い医療を提供できるよう努力して参ります。

■検査実施件数：2018年度(H30)

総検査件数は7,415件で、前年度比で2.8%増加しています。内訳は件数の多い順に、腹部超音波3,033件、心臓1,985件、乳腺975件、頸動脈510件、下肢血管424件、表在385件、甲状腺103件でした。

■検査体制

超音波センターでは臨床検査技師と、各領域(腹部、心臓、血管、乳腺、甲状腺、皮膚など)の医師が協力して、多種多様なニーズに応えられる様に精進しております。使用機器(検査コーナー)は4台体制で、平成30年度は汎用超音波検査装置を2台更新致しました。

超音波技術向上のためスタッフは各種勉強会・学会へ参加しており、超音波検査士(消化器、循環器、体表、泌尿器、血管)の資格取得にも取り組んでおり、資格保有者は年々増加しています。患者さんにより安心して検査を受けていただけるよう、体制を整えています。

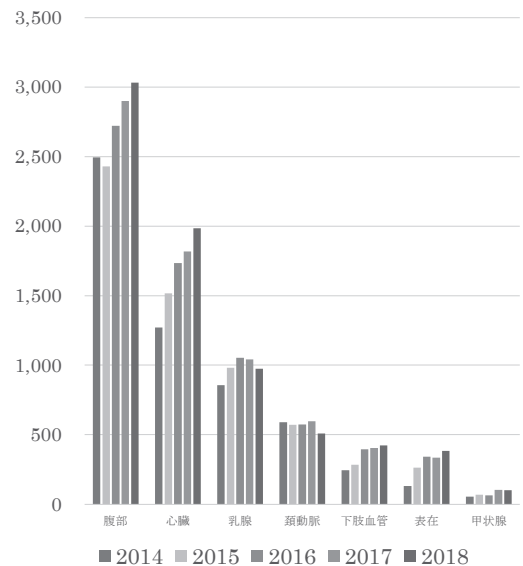
在籍超音波検査士 消化器領域 2名、循環器領域 2名
 体表領域 3名、血管領域 1名
 血管診療技師(CVT) 1名

部位別超音波検査 実施件数 推移

| | 2014年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 腹部 | 2,496 | 2,430 | 2,723 | 2,900 | 3,033 |
| 心臓 | 1,271 | 1,517 | 1,736 | 1,818 | 1,985 |
| 乳腺 | 858 | 983 | 1,054 | 1,043 | 975 |
| 頸動脈 | 591 | 572 | 574 | 598 | 510 |
| 下肢血管 | 245 | 286 | 397 | 406 | 424 |
| 表在 | 133 | 263 | 342 | 336 | 385 |
| 甲状腺 | 56 | 69 | 66 | 105 | 103 |
| | 5,650 | 6,120 | 6,892 | 7,206 | 7,415 |

(件)

部位別超音波検査 実施件数 推移2014-2018



リハビリテーション科 (リハビリテーションセンター)



田邊 勝久
整形外科部長
兼リハビリテーション科部長
兼リハビリテーションセンター長



中島 恭哉
整形外科部長
兼リハビリテーション科部長
兼リハビリテーションセンター長

渡邊 牧代
整形外科医長

当院は、一般病床主体の急性期病院であるため、当センターも急性期リハビリテーションを中心に、運動器(I)・呼吸器(I)・心大血管(I)・脳血管疾患(II)・廃用症候群(II)・がんリハビリテーション・摂食機能療法の施設基準を受け、理学療法士7名・作業療法士3名・言語聴覚士1名・介護員2名のスタッフにて、各診療科からの依頼により早期の機能回復、退院に向けて治療・支援に努めています。

当センターの特徴として骨折、人工骨頭置換術といった整形外科領域のリハビリテーションに加え、手の外科術後のハンドセラピーも行っています。また周術期を含めたがんのリハビリテーションや呼吸器疾患、循環器疾患のリハビリテーション、HCUでの早期離床を目指したリハビリテーション、地域包括ケア病棟での退院に向けてのリハビリテーションを行っています。

また、チーム医療の観点から糖尿病チーム、心不全チーム、褥瘡対策チーム、NSTチーム、呼吸ケアサポートチーム、緩和ケアチーム、周術期管理チーム、骨粗鬆症チーム、認知症ケアチーム、がんボードなどにも積極的に取り組んでいます。

■理学療法(physical therapy)

筋力・関節可動域・協調性など身体の運動機能障害に対して、物理療法(電気・牽引・温熱)や運動療法などを用いて、痛みの軽減や寝返る・立つ・歩くなど日常生活の基本的動作能力の回復を図ります。その他、呼吸・循環理学療法や糖尿病教室での運動指導などを行っています。

■作業療法(occupational therapy)

病気や怪我などで日常生活動作能力(食事・排泄・更衣・整容・家事・書字)が障害された方に対して、身体機能・高次脳機能・精神心理・職業社会面を通じて、最大限活用できるように関わっていきます。また、自助具・装具の作成・指導や福祉用具・家屋改修の情報提供などを行います。

■言語聴覚療法(speech, language and hearing therapy)

ことばによるコミュニケーションや嚥下(食事の際の飲み込み)にお困りの方の、評価・訓練・助言を行い、ご本人とご家族を支援します。

■その他

義肢・装具の作成、適合、修理などは医師の指示により週2回義肢装具士が対応し、理学療法士・作業療法士も協力しています。

退院後の支援として、介護支援専門員・福祉住環境コーディネーターなどの資格を併せ持つスタッフが要望に応じて助言し、また転院・退院に際しては看護部や地域医療連携室とも協力し情報提供・退院指導を行っています。

| |
|-------|
| 内科 |
| 外科 |
| 整形外科 |
| 小児科 |
| 皮膚科 |
| 泌尿器科 |
| 眼科 |
| 麻酔科 |
| 産科 |
| 産婦人科 |
| 消化器 |
| センター |
| 呼吸器 |
| センター |
| 心臓血管 |
| センター |
| 内視鏡 |
| センター |
| 糖尿病 |
| センター |
| 超音波 |
| センター |
| リハビリ |
| センター |
| 薬剤部 |
| 臨床検査科 |
| 外来化学 |
| 療法室 |
| 看護部 |
| 緩和ケア |
| チーム |
| 委員会 |
| 褥瘡対策 |
| 委員会 |
| NST |
| 審判員 |
| 感染対策 |
| 室 |
| 医療安全 |
| 対策室 |
| 臨床工学 |
| 科 |

周術期サポートセンター

上島 成幸

周術期サポートセンター長

■はじめに

近年、複数の併存疾患を有した高齢者の増加、複雑で難度の高い手術例の増加に加えて、一般社会の意識の高まりによる医療者側への要求レベルの上昇、ジェネリック医薬品の増加とサプリメントの氾濫など手術を取り巻く環境は急激に変化してきています。しかも前日入院例が増加し、外来の限られた時間内でリスク評価をする上で主治医のみでは効率が悪く、診療科スタッフだけでも十分な対応が難しくなっています。周術期管理を安全にかつ効率よく実施するためには多くの専門知識が必要となり、多科・多職種チームアプローチが必要不可欠と思われま



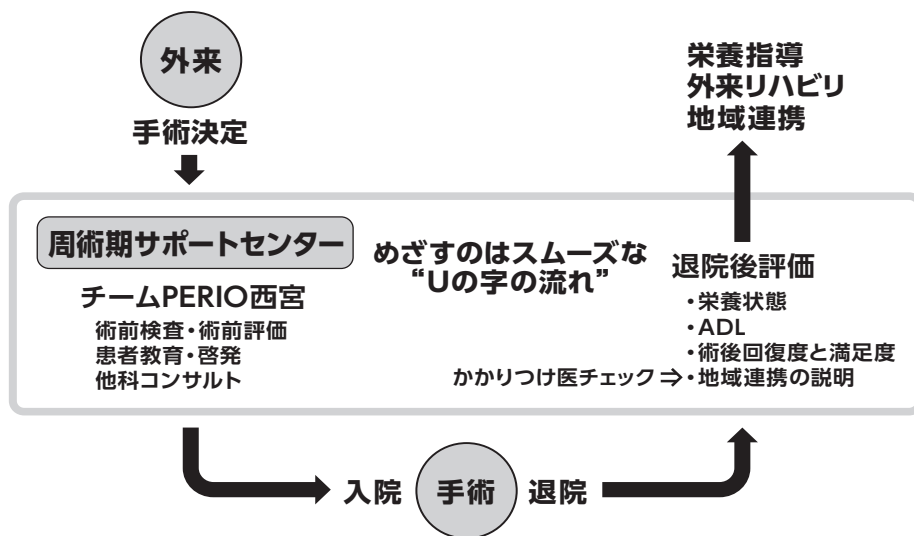
■周術期サポートセンターの創設

以上の環境の変化、時代のニーズに応えるために当院では病院1階に「周術期サポートセンター」を創設し、平成29年3月末から運用を開始いたしました。センターで活動するのは主に看護師、薬剤師、管理栄養士、医療クラーク、メディカルアシスタントです（写真）。

■現在利用している科

消化器外科、泌尿器科、整形外科、消化器内科（内視鏡治療）、循環器内科（心カテなど）、呼吸器内科（内視鏡検査）、皮膚科、眼科、口腔外科

■サポートセンターを中心とした周術期の流れ



1. 手術が決定されますと、各科外来で術前検査などが記載されている指示書にチェックを入れ、患者さんをサポートセンターに案内します。
2. サポートセンターで指示書に従って術前検査のオーダーや予約をいたします。
3. 検査上異常があれば循環器内科などの他科コンサルトや追加検査のオーダーを行います。
4. 高齢者総合的機能評価のスクリーニングを行います。
5. 手術までに中止すべき薬剤に漏れないよう、持参薬のチェックを行います。
6. リハビリテーション科で、握力などの身体測定や手術まで自宅でできる運動リハや呼吸リハの指導をいたします（消化器外科のみ）。
7. 手術にむけての栄養指導を行っています。
8. 麻酔科による術前診察で追加オーダーが出ればアレンジします。
9. 入院に必要な物品などの説明をします。

以上のことを短期間に行い、主治医の次回外来に間に合わせるようにしています。

消化器外科においては退院後初回外来受診時にサポートセンターに来ていただき、退院後の回復の程度についてチェックしています。泌尿器科においても前立腺手術後のリンパ浮腫に対する指導を行っています。

■今後の予定

術後フォローにおける地域連携の強化を図っていきたいと考えています。

薬 剤 部



橋本 秀一
薬剤部長

薬剤部では、薬剤師外来、病棟常駐、持参薬確認、薬剤管理指導、抗がん剤のレジメン管理と調製、TPN調製、TDM解析・抗菌薬関連、医薬品管理、医薬品情報提供などの各業務の充実を図り、ICT・AST・NST・緩和ケアなどのチームにて活動し、医薬品の適正使用と医療安全に取り組んでいます。また、治験業務、薬学生の長期実務実習の指導に係わり、社会的責務も果たすよう努めています。

■薬剤師外来・持参薬管理などについて

手術予定や侵襲的検査予定の患者さんに対して、入院前などに外来にて服用薬やサプリメント類について確認を行い、医師と連携して手術や検査をより安全に受けただけのように取り組んでいます。さらに、抗がん剤などに関する説明・指導を外来患者さんに行っています。また、入院される患者さんは、様々な薬を持参してこられます。この持参薬に対して医療安全面等から薬剤部にて、名称・効能効果・用法用量・持参数量などを調べ、患者面談を実施し、服用状況なども含めた薬剤情報を医師に提供すると共に、ご入院中の持参薬管理を行っています。

■薬剤管理指導(服薬指導等)・病棟常駐について

入院患者さんへの薬剤管理指導は、薬剤部の重要な業務の一つです。薬のことを患者さんによく知っていたくことで治療への意欲が向上し、合わせて副作用を未然に防ぐことができます。また薬剤師が患者さんの話を聞くことによって薬の効果を直接評価するとともに、副作用症状の発現を確認することができ、医師や看護師をサポートすることにもなります。さらに、主な病棟では、薬剤師が平日昼間、常駐し、医療スタッフと協働しながら、薬剤関連業務にあたっています。

■抗がん剤・高カロリー輸液混合調製について

がん化学療法は複数の抗がん剤を組合せて行われることが多く、その組合せや投与量、投与間隔などを間違えると大変危険です。このため当院では抗がん剤投与方法を標準化し、医師、薬剤師、看護師が個々の患者さんの投与計画を共有し、相互に確認を行う方法が実施されています。薬剤部では部内に安全キャビネットを設置し、全ての抗がん剤の処方について、投与計画を確認しながら混合調製を行い、一部の抗がん剤では閉鎖式器具を使用することでより安全性を高めています。また、高カロリー輸液についても安全性向上を目的として、部内にて混合調製を実施しています。

■院外処方せんについて

原則として全ての外来患者さんに院外処方せんを発行しています。薬剤部は調剤薬局からの疑義照会の窓口としての役割や、当院の新規採用薬や削除薬のリストを当院ホームページに掲載するなど、院外処方せんが円滑に発行されるように支援しています。



抗がん剤混合調製



持参薬管理

臨床検査科



小川 弘之

臨床検査科主任部長

臨床検査科は生理検査部門と検体検査部門から構成され、臨床検査技師16名が迅速かつ正確な結果を報告しています。生理検査部門には超音波センターが設立、各測定機器も最新の機器に更新されて正確な診断に役立っています。検体検査部門では免疫蛍光分析装置を新規購入、プロカルシトニン定量、トロポニンT定量、BNPを院内測定に導入、救急患者さんの診断に役立っています。電子カルテは更新され、生理検査もシステムの新規導入によるレポートングによりリアルタイムに臨床側に結果が報告されています。

患者さんに、より早い検査結果の報告を目指し、院外からの応援職員と共に24時間365日体制も確立され、診療をサポートしています。

■業務内容

検体検査、細菌検査、生理検査の3部門に分けられます。

■検体検査

- ・ **生化学検査**(肝機能、腎機能、膵機能、脂質、電解質、内分泌、PCT、CK-MBmass、トロポニンT定量、微量尿中アルブミン等)
- ・ **免疫・感染症検査**(HBsAg、HBsAb、RPR、TP抗体、HCV、HIV、AFP、CEA、CA125、CA19-9、TSH、FT3、FT4、PSA、CA153、ProGRP、シフラ、BNP、KL-6、コルチゾール)
- ・ **血液検査**(検血、凝固系、血沈)
- ・ **輸血関連検査**(血液型、クロスマッチ、抗体スクリーニング)
- ・ **一般検査**(検尿、便、髄液、関節液、胸水、腹水、穿刺液)
- ・ **迅速検査**(インフルエンザ、β溶連菌(A群)、便ロタ・アデノウイルス、ノロウイルス、咽頭マイコプラズマ、RSウイルス、咽頭・角結膜アデノウイルス、ヒトメタニューモウイルス)

■細菌検査

一般細菌、結核菌、真菌(塗抹、培養、感受性)CDトキシン、病原大腸菌O-157等

■生理検査

心電図、負荷心電図、ホルター心電図、血圧・脈波・負荷心筋シンチ、聴力検査、脳波、肺機能、PSG(睡眠時無呼吸症候群検査)、超音波検査(腹部、心臓、乳腺、頸部血管、下肢血管、腎動脈、表在、経食道心臓)、皮膚灌流圧SPP、マスター心電図、呼気一酸化窒素分析

■その他

16名の技師中、下記の認定資格所持者がいます。

超音波検査士 4名(日本超音波医学会)

緊急臨床検査士 2名(日本臨床検査同学院)

二級臨床検査士 3名(循環生理学)(免疫・血清学)(血液学)(微生物学)

心電検査技師 1名(日本臨床衛生検査技師会)

血管診療技師(CVT) 1名

全国規模の外部精度管理に積極的に参加し、検査精度の維持・向上に努め、高い評価を得ています。

輸血療法委員会の主催や肺塞栓予防チーム会・ICT・ASTでのデータ提供、糖尿病チームでの支援を行うなどチーム医療に参加しています。

| |
|-------|
| 内科 |
| 外科 |
| 科 |
| 整形外科 |
| 小児科 |
| 皮膚科 |
| 泌尿器科 |
| 眼科 |
| 科 |
| 麻酔科 |
| 産科 |
| 外科 |
| 口腔科 |
| 臨床 |
| 科 |
| 脳神経 |
| 科 |
| 耳鼻咽喉科 |
| 放射線科 |
| 産婦人科 |
| 消化器 |
| センター |
| 呼吸器 |
| センター |
| 心臓血管 |
| センター |
| 内視鏡 |
| センター |
| 糖尿病 |
| センター |
| 超音波 |
| センター |
| 皮膚科 |
| センター |
| 薬剤部 |
| 臨床検査科 |
| 外来化学 |
| 療法室 |
| 看護部 |
| 緩和ケア |
| チーム |
| 委員会 |
| 栄養管理室 |
| NSIT |
| 感染対策室 |
| 医療安全 |
| 対策室 |
| 臨床工学科 |

外来化学療法室



大西 直
外来化学療法室室長

当院では平成18年9月から「外来化学療法室」を開設しています。

癌の治療法には「手術」「放射線治療」「抗がん剤による化学療法」があります。15年ほど前まで化学療法の多くは入院で行われてきました。外来での化学療法も各科外来で行われていましたが、管理・調剤は一般の点滴と同様に各科の医師・看護師に任されていました。その後、新しい治療薬が登場し、また副作用を抑える治療法（支持療法）が進歩したため、外来で化学療法を行う件数が増えてきました。そして円滑で安全な治療のために外来化学療法室が誕生したのです。

■安全性を高め、療養環境が整備された外来化学療法

外来化学療法室は単に抗がん剤を投与する部屋ではありません。その日、どの科で、どんな抗癌剤治療が行われるか、ここで集約して治療することで、一人の患者に多くのスタッフが関わり、効率的かつ安全に治療を行うためのシステムそのものです。

化学療法室の利点としては

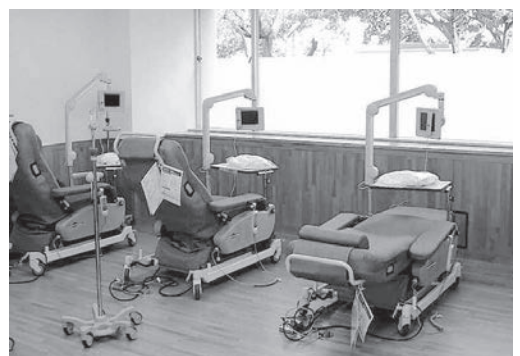
- 各診療科から独立し、プライバシーに配慮した環境
- 専任スタッフの配置で患者対応を充実
- 医師・看護師・薬剤師がチームで患者さんの治療内容を把握
- 使用する抗がん剤は、薬剤部で独立して調剤
- リクライニングチェアでリラックスしながらの治療
- 副作用・合併症をチームで把握し対応強化

外来化学療法室は化学療法専用の治療室であるため、一般の外来診察室とは独立しております。患者さんのプライバシーに配慮するとともに、専任の看護師・薬剤師・医師などの医療スタッフがチームを組み、個々の患者さんの治療内容とスケジュールを把握し、十分なケアが行えるよう努めております。

特に、安全性と確実性が重視される調剤におきましては、薬剤部内に専用の調剤スペースを設けて、2名以上の薬剤師で確認しながら調剤し、外来化学療法室に運びます。一般の患者さんの点滴とは完全に独立した流れで調剤されていることも安全につながっています。また化学療法室で行われた血液検査も一般の検査とは別に扱い、診療の迅速化を図っております。

化学療法室では、テレビ付きリクライニングチェアなどリラックスした環境で治療を受けていただけるようにしております。専任の看護師を配置しておりますので、お気軽に相談をしていただくこともできます。副作用のこと、頭髪のこと、経済的な問題や、家庭の問題など医師には直接話しにくいことを相談されている方もおられます。初めての方には開始前のオリエンテーションとして、注意事項の説明やウィッグ購入のアドバイスなども行います。

また想定される副作用や合併症、時間外の対応につきましては、各科の連携強化、マニュアルの整備、スタッフのレベルアップなどに努めております。患者さんが安心して治療を受けていただけますよう、今後さらに体制を充実させてまいります。



看護部

私たち看護部では、「患者さんと共に喜びを感じる」をコンセプトとして、専門性の高い看護だけでなく、倫理性や人間性に重きを置いた「心温かな看護」を提供しています。

今後も、地域の皆様に親しまれ信頼される看護が提供できるよう努めてまいります。

看護部長 恩田朋子

看護部の理念

私たちは良質で信頼される看護を目指します

- 1 心温かな看護
- 2 患者さま中心の看護
- 3 安全な看護
- 4 地域に開かれた看護

《看護部の活動》

急性期一般病棟

7：1 看護配置 固定チームナーシング
地域包括ケア病棟

手術看護

周術期サポートセンター 入院支援センター

外来看護

看護外来

糖尿病療養指導
透析予防外来
フットケア外来
リンパ浮腫外来
ストーマケア外来

がん相談 医療相談 患者会

現任教育

人材育成・研修 キャリア開発ラダー
看護学生実習受け入れ

安全活動 医療安全対策室 感染対策室

地域医療連携室 前方連携・退院支援

褥瘡対策チーム
栄養サポートチーム
緩和ケアチーム
認知症ケアチーム
呼吸ケアサポートチーム

認定看護師

手術看護 / 糖尿病看護
皮膚排泄ケア
がん性疼痛 / がん化学療法看護
感染管理 / 認知症看護
慢性心不全看護

専門看護師

急性・重症患者看護

| |
|----------------|
| 内科 |
| 外科 |
| 整形外科 |
| 小児科 |
| 皮膚科 |
| 泌尿器科 |
| 眼科 |
| 麻酔科 |
| 産科 |
| 外科 |
| 口腔科 |
| 臨床検査科 |
| 脳神経科 |
| 耳鼻咽喉科 |
| 放射線科 |
| 産婦人科 |
| 消化器センター |
| 呼吸器センター |
| 心臓血管センター |
| 内視鏡センター |
| 糖尿病センター |
| 超音波センター |
| リハビリ科 |
| 周術期サポートセンター |
| 薬剤部 |
| 臨床検査科 |
| 外来化学療法室 |
| 看護部 |
| 緩和ケア推進対策チーム委員会 |
| 栄養管理室 |
| NST |
| 感染対策室 |
| 医療安全対策室 |
| 臨床工学科 |

緩和ケアチーム



前田 倫

麻酔科主任部長
兼ペインクリニック内科・外科主任部長
兼疼痛・緩和センター長

当院の緩和ケアチームは、発足以来13年で228名の末期癌患者さんのケアを行ってきました。院内各科に加えて、他院からの紹介もあります。

現メンバーは、麻酔科医5名、内科医1名、精神科医（非常勤）1名、薬剤師1名、理学療法士1名、栄養士1名、加えて各病棟1名以上の看護師からなります。ケアの主軸となる疼痛治療はオピオイドを中心とし、当院の特色であるペインクリニック科の神経ブロック、放射線科のライナックも併用可能であり、有効な疼痛緩和法を行っています。チームとして毎週木曜日にカンファレンスと回診を行い、検討・決定した治療法の効果を連日1名のメンバーが交代で訪床して確認し、フィードバックするシステムを採っています。

緩和病室2個室が設置されています。また日本緩和医療学会の専門医1名を擁し、緩和医療の研修認定施設となっています。日本看護協会のがん性疼痛認定看護師の専従化も進んでいます。当院も西宮市の地域緩和医療に大きく寄与できる施設になるように努めています。



緩和病床



チームカンファレンス

褥瘡対策委員会

当委員会では褥瘡に関するケアの質の向上及び、重症化の予防に努め院内発生ゼロと早期治癒を目標に以下の活動を行っています。

■褥瘡発生予防対策

- 1) 褥瘡の早期発見
- 2) 適切なポジショニング
- 3) NSTと連携した栄養管理
- 4) 体圧分散マットレスの選択
- 5) スキンケア

■褥瘡保有者の早期治療

- 1) 薬剤（軟膏類）とドレッシング材の選択
- 2) 外科的デブリードマン、NPWT（局所陰圧閉鎖療法）による治療
- 3) 脂肪製剤などを考慮した点滴の投与
- 4) 創傷治癒過程に則した補助栄養剤の選択

構成メンバーは皮膚科医師、循環器内科医師、皮膚・排泄ケア認定看護師、病棟褥瘡専任看護師（リンクナース）、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、作業療法士、事務員です。多職種で連携を行い、週1回のカンファレンスで各々の専門的立場から包括的に治療方針を決定しています。また月1回の褥瘡対策チーム会では具体的な活動の実施と対策、3か月に1回の褥瘡対策委員会ではチーム会活動の評価と院内基準（マニュアル）の見直しを行い、院内職員のスキルアップを図る目的で勉強会の開催を行っています。

特に褥瘡発生ハイリスク患者に関しては皮膚・排泄ケア認定看護師が病棟ラウンドを行い、個別に応じたケアを病棟スタッフへ指導しています。

入院中に治癒に至らなかった患者さんには訪問看護師、かかりつけ医と連携し、当院の皮膚・排泄ケア認定看護師が在宅訪問を行うことでケアが継続できるようにお手伝いをしています。

褥瘡の発生予防と早期治療は地域の医師や訪問看護師、ヘルパー、ケアマネージャーなどと病院が連携して対策に努める必要があります。当委員会は院内の活動に限らず在宅で治療を継続される患者さんの支援も行っていきます。



栄養管理室

当院の栄養管理室は、入院・外来にかかわらず、すべての患者さんの栄養管理と栄養指導を受け持っています。

■栄養管理

当院の栄養基準表をもとに、入院患者さん一人ひとりに沿った食事を提供し、1日も早い病状改善と体力回復を図ります。すべての入院患者さんに、検査結果等をもとに栄養管理計画を立案し、また患者さんの嗜好を考慮した栄養管理を行います。また、退院後自己管理ができるよう、栄養サポートも行っています。

管理栄養士は、NST（Nutrition Support Team：栄養サポートチーム）、褥瘡対策、緩和ケア、糖尿病や周術期管理、骨粗鬆症、認知症ケアのチーム医療に関わり、他職種連携で活動しています。毎週のNST回診や褥瘡回診では栄養評価を行い必要な栄養管理を実施することで、治療効果向上に努めています。

（栄養サポートチーム専門療法士：2名）

■栄養指導

①個別栄養指導

入院・外来患者の栄養指導は、その患者さんに合わせた栄養管理カルテを作成し、日常生活での問題点をピックアップしながら食事療養計画をすすめていきます。

当院に入院・通院されている方以外でも、地域医療機関の先生方の指示のもと、個々の患者さんの生活習慣を把握したうえで食生活のアドバイスを行います。詳しくは地域医療連携室へ電話でお問い合わせください。

FAXにて栄養指導用診療情報提供書を送らせていただきます。

◇実施曜日

- ・月～金曜日（ただし、水曜日の午前は除く）
- ・指導時間 30分程度

対象疾患

糖尿病、肥満症、高血圧、脂質異常症（高脂血症）、高尿酸血症、脳・心血管疾患、肝臓疾患、腎臓疾患、骨粗鬆症、小児食物アレルギー、メタボリックシンドローム、消化管術後、低栄養、嚥下障害 など

糖尿病

糖尿病のチーム治療として、食事だけにとどまらずに、さまざまな要素から病状改善のポイントを見つけしていきます。栄養指導は、一度で完結させず、患者さんの理解度や状況に合わせて継続的に行っています。

（日本糖尿病療養指導士：1名）

手術前後

消化管疾患の手術予定の方には、手術前の外来から栄養士が関わります。体組成測定による骨格筋量評価や摂取状況確認を行い、入院までの食事療法についてお話します。

入院中は手術前と退院前に栄養指導を行い、食事の摂り方、食材選択、調理法についてお話をしています。また、ご自宅で利用できる宅食サービスなどの紹介もしています。

低栄養

入院中だけでなく、退院後の在宅栄養管理もサポートしています。低栄養や嚥下障害に対応した栄養指導を行い、材料の選択や調理法、また栄養補助食品の紹介などを行っています。



②集団栄養指導

糖尿病の教育入院患者さんを対象として、毎週火曜日に行っています。合併症の進展予防や、合併症のひとつである糖尿病腎症の病期分類による食事療法の違いなどについて、お話ししています。また人工甘味料や低カロリージャムの紹介など、治療用食品の情報提供も行っています。

③人間ドック後の栄養相談

人間ドックの検査結果をもとに、個別栄養相談を行っています。検査結果を問わず、疾病予防の栄養相談もお受けしていますので、詳しくは医事課へお問い合わせください。

④糖尿病教室

当院の糖尿病専門医、ならびに医療スタッフによる開放教室で、どなたでも参加できます。(奇数月は毎週水曜日、偶数月は毎週木曜日の午後3時～、1日2講演を実施)

毎月1回、食事療法の話をしています。治療のための食事療法に合わせ、テレビや新聞などさまざまな健康情報の正誤性も解説します。日程などの詳細はホームページの糖尿病教室をご覧ください。



⑤デジカメを使用した栄養相談

デジカメで撮影した日常のお食事を、当院の管理栄養士が食事内容と栄養を分析し、患者さんにふさわしい食生活を丁寧に指導、アドバイスします。(デジカメは当院で貸出します。)

■特定保健指導

特定健診(40歳以上義務化)後の特定保健指導を、管理栄養士が行っています。

(特定保健指導担当者研修修了者4名)

特定健診は、毎週水曜日に予約制で受け付けています。詳しくは医事課へお問い合わせください。

■行事食

当院の入院中のお食事は、皆さまに楽しんでいただけるように季節感のある献立を考えています。

また、毎週1回昼食と夕食は、2種類のメニューからお好きなものを選択していただけるようになっています。

- 1月…お正月(三が日、おせち料理)、七草粥
- 2月…節分
- 3月…ひな祭り
- 4月…花見弁当
- 5月…子供の日
- 6月…あじさい日和
- 7月…七夕、土用丑の日
- 8月…夏バテ防止
- 9月…敬老の日、松茸(栗)ご飯
- 10月…お月見、体育の日、ハロウィーン
- 11月…秋祭り(収穫祭)
- 12月…冬至、クリスマス、大晦日(年越しそば)



| |
|----------|
| 内科 |
| 外科 |
| 整形外科 |
| 小児科 |
| 皮膚科 |
| 泌尿器科 |
| 眼科 |
| 麻酔科 |
| 産科 |
| 小児科 |
| 口腔科 |
| 臨床検査科 |
| 脳神経科 |
| 耳鼻咽喉科 |
| 放射線科 |
| 産婦人科 |
| 消化器センター |
| 呼吸器センター |
| 心臓血管センター |
| 内視鏡センター |
| 糖尿病センター |
| 超音波センター |
| リハビリセンター |
| 薬剤部 |
| 臨床検査科 |
| 外来化学療法室 |
| 看護部 |
| 緩和ケアチーム |
| 褥瘡対策委員会 |
| 栄養管理室 |
| NST |
| 感染対策室 |
| 医療安全対策室 |
| 臨床工学科 |

NST（栄養サポートチーム）



大畑 裕之
内科主任部長
兼消化器内科主任部長

■NSTとは

NST (Nutrition Support Team : 栄養サポートチーム) とは、栄養について総合的に管理するシステムで、医師のみならず看護師、管理栄養士、薬剤師、検査技師、リハビリテーションスタッフがそれぞれの専門的な知識、技術を活かしながらチームとして活動しています。当院では、平成18年4月にNSTを立ち上げました。

■なぜ栄養管理が必要なのでしょう

栄養不良は、治療や病気の予後に重大な影響を与えることが以前より指摘されています。すべての病気において、栄養管理をおろそかにすると治療の効果が減じたり、合併症や副作用が多くなったりしてしまいます。例えば、栄養状態が悪いと床ずれ（褥瘡）ができたり、食べ物や飲み物がうまく飲み込めないことにより肺炎（誤嚥性肺炎）を起こしたりします。NSTは入院された方の栄養をあらゆる方面から検討するだけでなく、手術を予定している方に対して通院中から栄養状態を改善し、早期に退院できるようサポートしていきます。

■NST活動の実際

入院された方には、入院時に食事の状態や日常生活の活動性などについて看護師が伺い、体重の変化や血液検査データなどから現在の栄養状態を把握します。医師は入院時の診察で、栄養状態の評価や褥瘡の危険度の判断を行います。また、検査技師は、栄養管理の指標となる検査データをチェックし、薬剤師・管理栄養士は必要栄養量、現状の摂取栄養量を計算して栄養評価を行います。これらにより栄養管理が必要な方を見逃さないようにしています。当院のNSTでは毎週木曜日の午後1時半よりミーティングを行っています。体重や身体計測値の推移、摂食状態、その他の全身状態を見ながら、必要なカロリーや栄養素が十分にとれているかを判断し、食事内容、経腸栄養の内容、点滴の内容などを主治医とともに考えていきます。平成27年5月からは通院中の方にも栄養外来で栄養状態の評価を行っています。

高齢化による誤嚥性肺炎の増加について対策として、定期的な嚥下機能評価を行うことにしました。これにより入院中の肺炎が減るのではないかと期待しています。

病院には、NST以外に緩和チーム、褥瘡チームなどがありチーム間で連携しています。栄養状態の改善はさまざまな病気の予防・治療の基本であり、当院では、今後より一層、横断的なNST活動を行っていきます。



感染対策室

感染制御チーム（ICT：Infection Control Team）

抗菌薬適正使用支援チーム（AST：Antimicrobial Stewardship Team）

感染対策室室長 網野 かよ子（感染制御医師）

感染管理者 高橋 三千代（感染管理認定看護師）

感染対策室は医療関連感染の危険性を減少させ、感染を制御するための実務を担う部署として平成28年4月に設置されました。医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、事務職員で構成されています。

■感染対策室の業務

1. 医療関連感染サーベイランス
2. 感染防止対策に関する教育
3. 職業感染防止対策の計画・実施
4. 院内感染対策マニュアルの作成・改訂
5. 感染症発生時の調査と制圧に向けた対応
6. 院内外の感染制御や感染症治療に関連するコンサルテーション
7. 感染制御に向けた地域連携の活動
8. 抗菌薬適正使用支援



感染対策室では週1回のICT、ASTミーティングや院内ラウンドで、感染に関連する問題点の明確化や抗菌薬適正使用のモニタリング、情報の共有を行います。また、感染に関する会議を企画、運営しています。

月1回開催する感染防止対策委員会や、ICTリンクスタッフ会では、感染症発生数、病源微生物分離数、抗菌薬使用状況、アルコール手指消毒剤使用量など、感染に関連する情報を院内全体で共有しています。また、感染対策上の問題については、感染防止対策委員会で対応策を決定し、ICTやリンクスタッフ会が中心となり院内全体で取り組んでいます。

医療安全対策室

医療安全対策室室長 上島 成幸
医療安全管理者 井伊 和子



近年の医療の高度化と共に、市民の医療サービスへの期待は大きくなっています。それに伴い、医療安全に対する関心も高まり、医療者が安全な医療を提供するといった責務は重大です。

医療者側の安全な医療に対する意識づけと教育は重要であり、組織的な取り組みが必要となっています。その為、医療安全対策室は、全職員対象に研修会を行い、特に新人職員には当院や他施設での事

故事例を取り上げて、その要因や対策について講習をしています。リスクマネジメント委員会では、インシデント報告を分析、対策を検討し、病院全体で情報を共有して再発防止に努めています。その他にも、医療安全対策室員（医師・看護師・医療技術部門・事務部門のメンバー）による医療安全パトロールを実施し、不適切なシステムや環境について調査を行い、改善に繋がっています。病院内での倫理的な事案や、患者さんの個人情報取り扱いや、管理方法についてはリスクマネジメント委員会と同じメンバーで構成する院内倫理・個人情報保護委員会で検討しています。

また、医療機器の適切な取り扱いに関しては臨床工学技士に依頼し、研修会を開催しています。機器に関するマニュアルや事故防止と対策についても、臨床工学技士と連携し、内容を見直すなど取り組んでいます。

今後も医療安全対策室として、スピーディーで効果的な活動を行い、患者さんに安心していただける医療サービスの提供を目指していきたいと考えています。

2018年度より医療安全対策地域連携加算1を取得しました。複数の医療機関が連携し、医療安全対策に関する評価を行うことで、より一層の改善に取り組んでいます。



臨床工学科

臨床工学科係長 山元 秀紀
臨床工学技士 山元 祐宏
臨床工学技士 村山 賢介



医療の高度化、ニーズの多様化によって、多種多様の医療機器が医療の現場では使用されています。高度化された医療機器により複雑な治療や診断が可能となっていますが、操作や運用、管理など必要とされる知識・技術の専門性も高まっています。便利で優れた機能を持った医療機器も、使用方法や管理体制が十分でなければ、診療に支障をきたすばかりではなく患者に致命的な影響を与えることとなります。臨床工学技士は、高度化・複雑化した医療機器のスペシャリストとして、機器の操作や教育活動を通じて適正に医療機器を使用するための体制作りを支援しています。

■医療機器の保守管理業務

輸液ポンプや生体情報モニタ、超音波エコーなどの医療機器の中央管理を行い、効率的な機器の運用だけでなく保守管理や機種の一統一を行うことで安全に使用できる体制を整えています。また、医療機器管理システムを用いて安全に使用するための情報をデータベースに集約し、医療スタッフへマニュアルや改善のための方策などを発信しています。

■臨床支援業務

おもに生命維持管理装置と呼ばれる人工呼吸器や血液浄化装置の操作を病棟やHCUで行っています。また、循環器疾患におけるカテーテル治療での周辺機器や補助循環装置の操作、デバイス管理等の対応も行っています。その他、腹水濾過濃縮再静注法やラジオ波焼灼術、手術室での手術支援ロボット（da Vinci）や内視鏡手術業務の対応、呼吸サポートチーム（RST）のメンバーとしてチーム医療に取り組んでいます。

■医療機器の安全教育業務

医療安全対策室と連携し、年間計画を立て研修会を開催しています。医療スタッフのニーズとレベルに応じた研修になるように内容の検討や企画、回数・時間帯の調整を行っています。研修の内容には、取り扱い方法だけでなく構造や原理についての勉強や院内のトラブル事例を取り入れ、より身近でわかりやすいものになるように工夫しています。

内科
外科
科
整形外科
小児科
皮膚科
泌尿器科
眼科
科
麻酔科
産科
外科
口腔科
臨床検査科
脳神経科
耳鼻咽喉科
放射線科
産婦人科
消化器センター
呼吸器センター
心血管センター
内視鏡センター
糖尿病センター
超音波センター
消化器科
循環器科
薬剤部
臨床検査科
外来化学療法室
看護部
緩和ケアチーム
推進対策委員会
栄養管理室
N S T
感染対策室
医療安全対策室
臨床工学科

人間ドックのご案内

人間ドックの種類及び内容

■半日コース

| 区 分 | 料 金 (税抜)* | 実施曜日 (祝日を除く) | 実施時間 | 内 容 |
|-----------|--------------|-----------------|-------------|--|
| 半日一般ドック | 40,000円 | 月曜日 | 8:10~13:00 | 尿検査、血液検査全37項目、X線検査、腹部超音波検査、心電図検査、子宮頸癌検査など |
| | | 火曜日 | 8:10~11:00 | |
| | | 水曜日 | 8:50~12:20 | |
| 半日一般脳付ドック | 65,000円 | 月曜日 | 8:10~13:00 | 上記検査に加えて、MRI、眼底検査などの脳ドック項目を実施 |
| | | 水曜日 | 8:10~13:00 | |
| 半日脳ドック | 42,000円 | 水曜日 | 8:10~10:30 | MRI・MRA検査、血液検査全28項目、眼底検査、心電図検査 |
| | | 金曜日 | 8:10~10:30 | |
| 半日肺ドック | 36,000円 | 水曜日 | 8:30~10:00 | 喀痰細胞診、胸部マルチスライスCT検査、胸部X線検査 |
| 半日心臓ドック | 60,000円 | 金曜日 | 12:00~16:00 | 冠動脈CT検査、心臓超音波検査 血液検査全29項目、内臓脂質検査、動脈硬化検査 |

■1日コース

| 区 分 | 料 金 (税抜)* | 実施曜日 (祝日を除く) | 実施時間 | 内 容 |
|------------|--------------|-----------------|------------|---|
| 1日ドック(脳付き) | 90,000円 | 火曜日 | 9:00~17:30 | 尿検査、血液検査全41項目、X線検査、腹部超音波検査、心電図検査、子宮頸癌検査、動脈硬化検査、頸部超音波検査、MRI・MRA検査など(一部院外実施) ※昼食付き |

■1泊2日コース

| 区 分 | 料 金 (税抜)* | 実施曜日 (祝日を除く) | 実施時間 | 内 容 |
|--------------------|--------------|-----------------|------------------|--|
| 1泊2日ドック | 80,000円 | 木~金曜日 | 8:30~ 翌日13:00 | 半日一般ドックの検査項目に加えて、動脈硬化検査、糖負荷検査や甲状腺機能などの血液検査全47項目、眼底眼圧検査、前立腺検査、乳房検査(マンモグラフィ)などを実施。また、希望者には内臓脂肪検査を無料で実施。 なお、宿泊には近郊のホテルをご利用いただき、タクシーにより無料送迎。1日目の昼食(院内)と夕食(ホテル)は料金に含まれております。 |
| 1泊2日ドック (脳付き) | 107,000円 | | | |
| 1泊2日ドック (肺付き) | 99,000円 | | | |
| 1泊2日ドック (脳・肺付き) | 126,000円 | | | |

※令和元年7月1日現在。

■オプション検査(予約制ですので、ドック申込時にあわせてお申し込みください)

有料オプション検査

| 検査名 | 料金(税抜)※ | 備考 |
|-------------------------------|-----------------------|---------------------------------|
| PET—CT(院外実施) | 90,000円 | 1泊2日ドック、1日ドック、半日一般ドック、半日一般脳付ドック |
| 下部消化管検査(大腸内視鏡)(受診日とは別の日に実施) | 27,000円 (鎮静剤費用を含む) | 1泊2日ドック、1日ドック、半日一般ドック、半日一般脳付ドック |
| 聴力検査(オーディオメーター) | 1,650円 | 1日ドック、半日一般ドック、半日一般脳付ドック |
| 歯科口腔疾患検査 | 7,000円 | 1泊2日ドック |
| ピロリ菌検査(便採取法) | 2,250円 | 1泊2日ドック、1日ドック、半日一般ドック、半日一般脳付ドック |
| ピロリ菌検査(内視鏡下生検法) | 5,550円 | 上部消化管内視鏡検査実施者のみ |
| HPV検査(HPV高リスク判定) | 5,400円 | 婦人科検診実施者のみ |
| 骨密度検査(DEXA法) | 3,600円 | 1泊2日ドック、1日ドック、半日一般ドック、半日一般脳付ドック |
| 肺がん腫瘍マーカー(シフラ、ProGRP) | 3,600円 | 1泊2日ドック、1日ドック、半日一般ドック、半日一般脳付ドック |
| 婦人科系がん腫瘍マーカー(CA125) | 1,200円 | 1泊2日ドック、1日ドック、半日一般ドック、半日一般脳付ドック |
| 消化器系がん腫瘍マーカー(CA19-9) | 2,250円 | 半日一般ドック、半日一般脳付ドック |
| 鎮静剤費用(上部消化管内視鏡検査時) | 4,000円 | 上部消化管内視鏡検査実施者のみ |
| 肺ドック(喀痰細胞診、胸部CT)(受診日とは別の日に実施) | 27,000円 | 半日一般ドック、1日ドック、半日一般脳付ドック |

※令和元年7月1日現在。

■その他の検査

- ・ABI、CAVI(動脈硬化検査)
- ・マンモグラフィ検査

■特定健康診査項目への対応について

当院の人間ドックは、半日肺ドックを除く全てのコースが特定健康診査の検査項目を満たしており、人間ドックを受診することにより、特定健康診査を受診したものとみなされます。

■上部消化管(食道・胃・十二指腸)検査の選択制について

上部消化管検査については、X線検査(75歳以上は受診不可)または内視鏡検査(経口または経鼻)のいずれかを選択することができます。

■精密検査が必要とされた場合について

各種の診療科を備えた病院のメリットを生かし、必要に応じて様々な検査を実施することが可能です。(要専門科受診)※脳神経外科、耳鼻咽喉科などを除く

■結果報告について

2～3週間後、ご本人宛てに結果を郵送します。

人間ドックは予約制です。

ご希望の方は下記へお申し込みください。

<ご予約・お問合せ先>

西宮市立中央病院：電話 (0798) 64-1515

健康管理センター：内線201

受付時間：午前9時～午後4時(土・日・祝日を除く)

西宮市立中央病院「連携医制度」のご案内

■連携医制度とは…

地域の医療機関の皆様と西宮市立中央病院が相互に協力しながら、地域医療の充実と発展を目的に、相互の連携を強化し患者さんにとって良質の医療を提供するために「連携医制度」を平成28年4月より発足しました。

※平成18年10月に開放型病院の認定を受け登録医制度を発足しましたが、平成28年4月より連携医制度に移行し、従来の開放型病院共同診療のみならず、より連携を強化するべく拡大して参ります。

■連携医の取組み

- ・「連携証」と「連携プレート」を配付し医院に掲示
- ・中央病院のホームページに連携医の一覧掲示
- ・中央病院のホームページから各医院のホームページにリンク
- ・紹介患者のスムーズな診療
- ・開放型病院としての病院利用
- ・病棟で紹介患者さんの診療内容をご覧いただき、主治医と直接相談
- ・当院の高度医療機器（3TのMRI、64列CT…）を利用
- ・手術の見学
- ・当院が主催する、地域医療セミナーへの参加
- ・中央病院図書室の利用
- ・主治医との共同診療を行った場合、1回の診療で350点分の診療報酬（2次医療圏内の医療機関に限る）



〈連携プレート〉

■登録申込み手順

医療機関

- ① 西宮市立中央病院ホームページより「連携登録医申請書」(PDF形式／106KB)をダウンロードしてください。
- ② 必要事項を記入して、地域医療連携室に郵送又はFAX (0798-67-4896)してください。

西宮市立中央病院

- ③ 「連携証」と「連携プレート」をお届けします。貴院にご掲示ください。

地域医療連携室でのご紹介・ご予約患者さん承りについて

地域医療連携室では、ご紹介患者さんの診療予約を承っています。手続きは、当院の診療情報提供書をご記入の上、地域医療連携室宛てにFAXをお送りください。患者さんの予約希望日があればご記入ください。できるだけご希望に沿えるようにいたします。折り返しFAXで予約票を返送いたしますので、患者さんにお渡しください。

受付時間：月～金曜日 8時30分～19時（各日受付時間以降は翌診療日の承りとなります。）
土曜日 8時30分～12時

なお、眼科・小児科・ペインクリニック科につきましては、医師による診療情報提供書確認後の予約となりますので、返送までにお時間をいただいております。

患者さんの受診当日には、診察券、カルテを作成し、診療の準備をしてお待ちしております。

患者さんの診療後は、FAX、郵送または患者さんを通じて、文書でご報告いたします。ご報告が遅れているときはご一報ください。

※各種検査予約

- ・放射線科検査のお申し込みは「放射線科検査受付」のページ（P53）をご参照ください。
- ・内視鏡検査のお申し込みは「内視鏡検査受付」のページ（P54）をご参照ください。
- ・冠動脈CT検査・栄養指導も承っています。

西宮市立中央病院 地域医療連携室

〒663-8014 西宮市林田町8-24 TEL (0798)64-1540

FAX (0798)67-4896

担当者：西鉢 ゆかり(看護師長) 山瀬 まり(看護主任)

松田 真奈美(看護師) 岸本 雅之(MSW)

小林 雅子(MSW) 正木 悠里江(MSW)

がん相談窓口担当者：

森山 恵(がん性疼痛看護認定看護師)

患者さんのご紹介から受診までのご案内

患者さんのご紹介
診療情報提供書(紹介状)ご記入

FAX・郵送の場合(推奨)

FAXで予約票を返送いたします。
予約票は患者さんにお渡しください。
御来院までにカルテと診察券をご用意
しております。

患者さんが直接持参する場合

《患者さんの受診》

| | |
|-----------|---|
| 来院時間 | 予約票に記載の予約時間 |
| 受付場所 | 1階 紹介患者受付カウンター |
| ご持参いただくもの | 予約票・健康保険証・医療受給者証 ※当病院に受診歴のある方は診察券をご持参ください。 |

《患者さんの受診》

| | |
|-----------|--|
| 来院時間 | 受付時間内(平日午前8時半～11時) |
| 受付場所 | 1階 紹介患者受付カウンター |
| ご持参いただくもの | 診療情報提供書(紹介状)・健康保険証・医療受給者証 ※当病院に受診歴のある方は診察券をご持参ください。 |

ご報告

FAX、郵送、または患者さんを通じて文書でご報告致します。

症状が落ち着かれましたら、かかりつけ医へお戻りいただきます。

検査予約システムの導入について

当院では、一部の検査（MRI、CT、DEXA）において、インターネットを利用した『検査予約システム』を導入しています。システムの概要については以下の通りです。

システムの概要

- ・当院ホームページより検査の予約が可能です（24時間受付）。
- ・患者さんをお待たせすることなく、検査の日時を決定できます。
- ・検査予約票、承諾書をその場でプリントアウトできます。

必要な機器

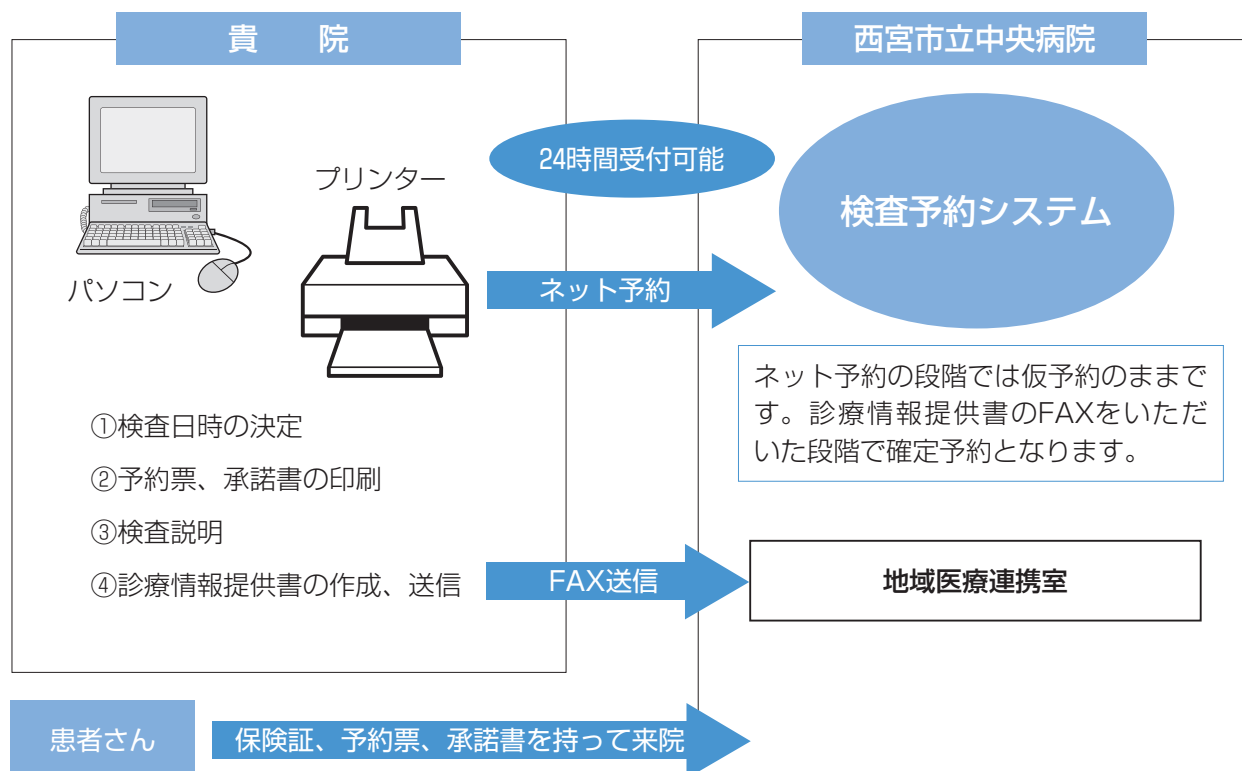
- ・インターネット環境が整備されたパソコン、プリンター



このシステムをご利用いただくにはIDとパスワードが必要です。

（登録料及び利用料は必要ありません。）

下記お問い合わせ先までご連絡ください。



—検査予約システムに関するお問合せ先—

E-mail : h_jji@nishi.or.jp

T E L : 0798-64-1515 (土日・祝日を除く午前9:00~午後5:00)

F A X : 0798-67-4896

西宮市立中央病院 医事課

放射線科検査受付

当院では、64列マルチスライスCT装置、3テスラMRI装置を用いた単純・造影撮影に加え、一般撮影検査や核医学検査（骨シンチ）、透視撮影検査（注腸検査）を受け付けております。

| 種類 | 内容 |
|---------------|--------------|
| C T | 全身に対応 |
| M R I | 全身に対応 |
| 消化管造影 | 食道・胃透視、注腸など |
| RI（ラジオアイソトープ） | 骨シンチ、Gaシンチなど |
| 一般撮影 | 胸部、腹部、骨など |

申し込み方法

電話またはFAXによる予約

放射線科検査申込書（診療情報提供書）を送信してください。

TEL 0798-64-1540
FAX 0798-67-4896

予約票をFAXで送信いたします。
（時間内受付の場合は直後に返送）

※注腸などの前処置の必要な検査の場合は、説明・準備のため患者さんまたはご家族の方にあらかじめ受診していただきます。

インターネットを使用した予約 （CT・MRI・DEXAのみ）

検査予約システム（当院HP内）で検査の空き状況を確認し、予約が可能です。

「予約票」「検査問診票」等が印刷できます。

予約日に検査を受けていただき、後日結果をご報告いたします。
※検査後、患者さんにデータCD-Rをお渡しいたします。

●単純CT検査の当日受け入れについて

当院のCT装置を幅広くご利用いただくため、単純CT検査につきまして、当日依頼の受付を行っています。地域医療連携室にお電話でお申し込みください。

<検査受付時間>

午前9時～11時45分

午後1時～4時（月・水は午後3時まで）

内視鏡検査受付

申 し 込 み 方 法

上部消化管内視鏡（胃カメラ）

■当院の診療情報提供書（紹介状）をご記入のうえ、地域医療連携室へFAXをお送りください。

FAX受付時間 午前8：30～午後7：00

検査予約をお取りし、予約票・検査注意事項・検査問診票を折り返しFAXします。患者さんには、検査日に「紹介患者受付」で受付後、内視鏡センターで検査を受けていただきます。

検査曜日：月～木曜日の午前中

下部消化管内視鏡（大腸ファイバー）

(1) 当院の診療情報提供書に必要事項をご記入のうえ、地域医療連携室へFAXをお送りください。

FAX受付時間 午前8：30～午後7：00

(2) 下記（4）に該当する患者さんにつきましては、予約票・検査注意事項・検査問診票を折り返しFAXします。

(3) 下記（4）に該当しない患者さんにつきましては、検査日時と検査日3日前までの内科または外科外来受診の予約をお取りして、FAXで予約票を返送します。

(4) 条件は下記のとおりです。

①75歳までの重篤な合併症がない患者さん

②モビプレップ内服が可能な患者さん（CRE1.2mg/dl以下）

③治療ではなく検査目的の患者さん

④ADL自立またはご家族等の付添いが可能な患者さん

検査曜日：月・水・木・金曜日

外来診察日：月～金曜日

地域医療連携室

電話 (0798) 64-1540

FAX (0798) 67-4896

上部・下部消化管ともに当日緊急検査が必要な場合は内視鏡センターまで直接お電話でお問い合わせください。

診療情報提供書

西暦 年 月 日

西宮市立中央病院 地域医療連携室 宛

| | |
|--|---|
| (希望受診科) <div style="text-align: center; border-bottom: 1px solid black; width: 80%; margin: 0 auto;">科</div> <div style="text-align: center; border-bottom: 1px solid black; width: 80%; margin: 0 auto;">医師</div> | 医療機関名 所在地 紹介医 (印) 電話 () - FAX () - |
|--|---|

(受診希望日)

| | | | |
|------|----------|----------|-----------------------|
| 特になし | 第1希望 月 日 | 第2希望 月 日 | 第3希望 _R 月 日 |
|------|----------|----------|-----------------------|

| | | | | | |
|--|----|---|---|---|-----|
| ふりがな | 生年 | M | T | S | H |
| 患者氏名 | 月 | 年 | 日 | 年 | 月 日 |
| 様 男 ・ 女 歳 | | | | | |
| 患者住所 〒 - | | | | | |
| 電話番号 () - | | | | | |
| 当院受診歴の有無 : 有 <input type="checkbox"/> ・ 無 <input type="checkbox"/> ・ 不明 <input type="checkbox"/> | | | | | |

| | |
|------------|--------------------------|
| 病名 | 既往歴及び家族歴 |
| 紹介目的 | |
| 病状経過及び審査結果 | 【 薬剤アレルギー: 有 (薬剤名) ・ 無 】 |
| 治療経過 | |
| 現在の処方 | |

西宮市立中央病院 地域医療連携室

FAX (0798)67-4896

電話 (0798)64-1540

受付 月曜～金曜 午前8:30～午後7:00

土曜 午前8:30～午前12:00

診療情報提供書(栄養指導用)

西宮市立中央病院 地域医療連携室 宛

西暦 年 月 日

栄養指導

(指導日) 西暦 年 月 日 ()

西暦 年 月 日 ()

実施曜日: 月～金曜

(ただし、水曜の午前は除く)

医療機関名

所在地

紹介医

印

電話 () -

FAX () -

| | | | | | | | |
|--|-------|----|---|---|---|---|---|
| ふりがな | | 生年 | M | T | S | H | R |
| 患者氏名 | 様 男・女 | 歳 | 月 | 日 | 年 | 月 | 日 |
| 患者住所〒 | | | | | | | |
| 電話番号() - | | | | | | | |
| 当院受診歴の有無 有 <input type="checkbox"/> ・ 無 <input type="checkbox"/> ・ 不明 <input type="checkbox"/> | | | | | | | |

| | | | | | |
|---------|-------|----------|-----|----------|----|
| 病名 | | | | 身長 | cm |
| 紹介目的 | | | | 体重 | kg |
| | | | | 既往歴及び家族歴 | |
| 熱量(カリー) | 塩分(g) | たんぱく質(g) | その他 | | |

| | |
|---|------------------------|
| 症状経過 及び 検査結果 ・ 治療経過 ・ 現在の 処方 | 【薬剤アレルギー 有 (薬剤名) ・ 無】 |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

西宮市立中央病院 地域医療連携室

FAX ((0798)67-4896

電話 ((0798)64-1540

受付 月曜～金曜 午前8:30～午後7:00

放射線科検査申込書(診療情報提供書)

西暦 年 月 日

西宮市立中央病院 地域医療連携室 宛

| | | |
|------------------------------------|------------------------------------|---|
| 放射線科 _____ 医師 _____ | | 医療機関 所在地 _____ 紹介医 _____ 電話 (_____) _____ FAX (_____) _____ |
| 受診希望日 西暦 | 年 月 日(_____) | |
| 検査種 | | |
| <input type="checkbox"/> CT撮影(単純) | <input type="checkbox"/> CT撮影(造影) | |
| <input type="checkbox"/> MRI撮影(単純) | <input type="checkbox"/> MRI撮影(造影) | |
| <input type="checkbox"/> 一般撮影 | <input type="checkbox"/> 骨シンチ | |
| <input type="checkbox"/> 透視検査(注腸) | <input type="checkbox"/> DEXA(骨密度) | |

| | | | |
|--|-----------|--------------------|-------|
| ふりがな 患者氏名 _____ 様 男・女 _____ 歳 | 生年 月 日 | M T S H R _____ | 年 月 日 |
| 患者住所 〒 _____ | | | |
| 電話番号 (_____) _____ | | | |
| 当院受診歴の有無 有 <input type="checkbox"/> ・ 無 <input type="checkbox"/> ・ 不明 <input type="checkbox"/> | | | |

| | | | |
|---------------------------|---|--|----------|
| 病名 | | | 既往歴及び家族歴 |
| 紹介目的 | | | |
| 腎機能低下(造影検査依頼時) | <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (血清クレアチニン _____ mg/dl (_____ 年 月 日) | | |
| ビグアナイド系糖尿病薬の服用(造影CT検査依頼時) | <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 不明 | | |

| | |
|---|--|
| 症状経過・検査結果・治療経過・現在の処方等【薬剤アレルギー:有(薬剤名 _____)・無】 | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

西宮市立中央病院 地域医療連携室

FAX
電話
受付(0798) 67-4896
(0798) 64-1540
月曜～金曜 午前8:30 ~ 午後7:00
土曜 午前8:30 ~ 午前12:00

内視鏡検査申込書(診療情報提供書)

西暦 年 月 日

西宮市立中央病院 地域医療連携室 宛

| |
|---|
| 上部消化管内視鏡 <input type="checkbox"/> (経口 <input type="checkbox"/> 経鼻 <input type="checkbox"/>) |
| 下部消化管内視鏡 <input type="checkbox"/> |
| (所定の条件に該当しない方は検査前に外来受診が必要となります。) |

| |
|--|
| 医療機関名 |
| 所在地 |
| 紹介医 ㊟ |
| 電話 () - |
| FAX () - |

(検査希望日)

| | | | |
|------|--------------|--------------|--------------|
| 特になし | 第1希望 月 日 () | 第2希望 月 日 () | 第3希望 月 日 () |
|------|--------------|--------------|--------------|

| | | | | | | |
|------------|----------------------------|----------------------------|-----------------------------|---|---|---|
| ふりがな | 生年 | M | T | S | H | R |
| 患者氏名 | 月日 | | | | | |
| 様 男 ・ 女 | 歳 | | | | | |
| 患者住所 〒 | | | | | | |
| 電話番号 () | | | | | | |
| 当院受診歴の有無 : | 有 <input type="checkbox"/> | 無 <input type="checkbox"/> | 不明 <input type="checkbox"/> | | | |

| | | | | |
|-----------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|
| 感染症の有無 | 投薬状況 | | | |
| HCV抗体 (+ ・ -) | MRSA (+ ・ -) | インスリン・血糖降下剤等の服用 | 有 <input type="checkbox"/> | 無 <input type="checkbox"/> |
| HBS抗原 (+ ・ -) | Wa-R (+ ・ -) | 血液凝固防止剤の服用 | 有 <input type="checkbox"/> | 無 <input type="checkbox"/> |
| 鎮静希望の有無 | 有 <input type="checkbox"/> | 無 <input type="checkbox"/> | | |

症状経過・検査結果・治療経過・現在の処方等

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

西宮市立中央病院 地域医療連携室 FAX (0798)67-4896
電話 (0798)64-1540
受付 月曜～金曜 午前9:00～午後7:00

診療情報提供書（冠動脈 CT 検査依頼）

検査を安全かつ円滑に施行するため下記用紙に必要事項のご記入をお願いいたします。
お手数をおかけいたしますが、ご協力のほどお願いいたします。

医療機関名 _____

所在地 _____

紹介医 _____ 印

電話（ ） _____

FAX（ ） _____

| | | | |
|---|-----|------|---------------|
| ふりがな 患者氏名 | 男・女 | 生年月日 | 年 月 日 (歳) |
| 住所 | | 電話 | |
| 当院受診歴の有無 有 <input type="checkbox"/> ・ 無 <input type="checkbox"/> ・ 不明 <input type="checkbox"/> | | | |
| 傷病名 | | | |
| 既往歴・患者情報 <input type="checkbox"/> 造影剤アレルギー <input type="checkbox"/> 気管支喘息 <input type="checkbox"/> 冠攣縮性狭心症 <input type="checkbox"/> 心房細動 <input type="checkbox"/> 大動脈弁狭窄症・肥大型心筋症 <input type="checkbox"/> ペースメーカー術後 <input type="checkbox"/> 腎機能障害 (これらの疾患が存在した場合、冠動脈 CT 検査を断らせていただくことがございます。) | | | |
| 最近のクレアチン値 (Cr) をご記入ください。 Cr mg / dL (月 日採取) | | | |
| 症状経過・治療経過 (簡潔で結構です) | | | |
| 処方 | | | |
| 備考 | | | |

※尚、冠動脈 CT 検査は、専用の時間設定があるため、電話にてのご予約に限らせていただきます。

また、心拍数が 65 / 分を超える場合 β 遮断薬 (セロケン もしくは ロブレゾール) の処方をお願いいたします。

このたびは患者さんのご紹介、まことに有難うございました。

西宮市立中央病院

西宮市立中央病院 冠動脈 CT 受診依頼票

当日の検査を安全に行うため下記項目を患者にご確認の上、診療情報提供書とともに FAX にて送信下さい。お手数おかけしますが、ご協力のほどよろしく申し上げます。

患者氏名 _____ 男 ・ 女 _____ 生年月日 _____

| |
|--|
| <p>① アレルギー体質または、現在治療しているアレルギーの病気がありますか？</p> <p><input type="checkbox"/> なし</p> <p><input type="checkbox"/> あり（じんましん・かぶれ・気管支喘息・アレルギー性鼻炎・その他（ _____ ））</p> <p>② 今までに造影剤の注射を使用した検査をしたことがありますか？</p> <p><input type="checkbox"/> なし</p> <p><input type="checkbox"/> あり（いつ頃 _____ 年 _____ 月頃）</p> <p>③ 以下の内容で該当する事がありますか？</p> <p><input type="checkbox"/> 腎臓が悪いといわれたことがある。</p> <p><input type="checkbox"/> 甲状腺の病気で現在治療をしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 現在糖尿病で内服加療をしている。</p> <p>（メデット・メルビン・グリコラン・メトグルコ・その他 _____ ）</p> <p><input type="checkbox"/> 息止め指示の声掛けで 10～15 秒程度息止めができない。</p> <p><input type="checkbox"/> β 遮断薬の投与ができない（セロケン・ロプレソール・コアベータ注射薬）</p> <p><input type="checkbox"/> 現在妊娠または授乳をしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 上記項目で該当する事項はない。</p> |
|--|

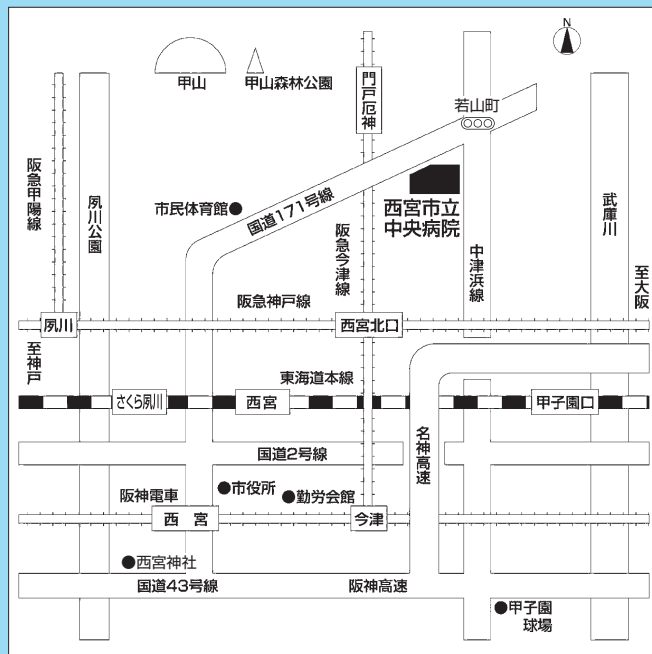
注意事項（患者へ事前説明をお願いします）

当日の検査は、造影剤を注射しながら行う検査です。検査 2 時間前に心臓の脈を遅くする β 遮断薬（セロケン もしくは ロプレソール）を内服いただきます。造影剤は病気の状態を一層正確に診断するために使用するもので、正確かつ最良の治療方針を立てるために非常に重要なものです。極めてまれ（10 万人～20 万につき 1 人）に治療を要する血圧低下やショック等の重大な症状を引き起こす事があります。病状・体質によっては約 40 万人につき 1 人の割合で死亡する場合があります。造影剤検査中・検査後に吐き気・かゆみ・発疹等の症状が現れた場合はすぐに申し出て下さい。

医療機関名 _____ 所属 _____ 記入者 _____

西宮市立中央病院 地域医療連携室・放射線科・循環器内科
FAX (0798) 67-4896
電話 (0798) 64-1540

西宮市立中央病院



所在地 〒663-8014 兵庫県西宮市林田町8番24号

電話 0798-64-1515

最寄りの駅 阪急電車 門戸厄神駅 東南へ徒歩10分

他の交通機関 阪急バス 西宮北口駅前発 西宮市立中央病院前下車

阪急バス JR甲子園口駅前発 西宮市立中央病院前下車

駐車スペース 99台有り